



陸軍大佐遠藤壽儼著

特206

259

新ら満蒙の手引

兵林館藏版



始



特206
259

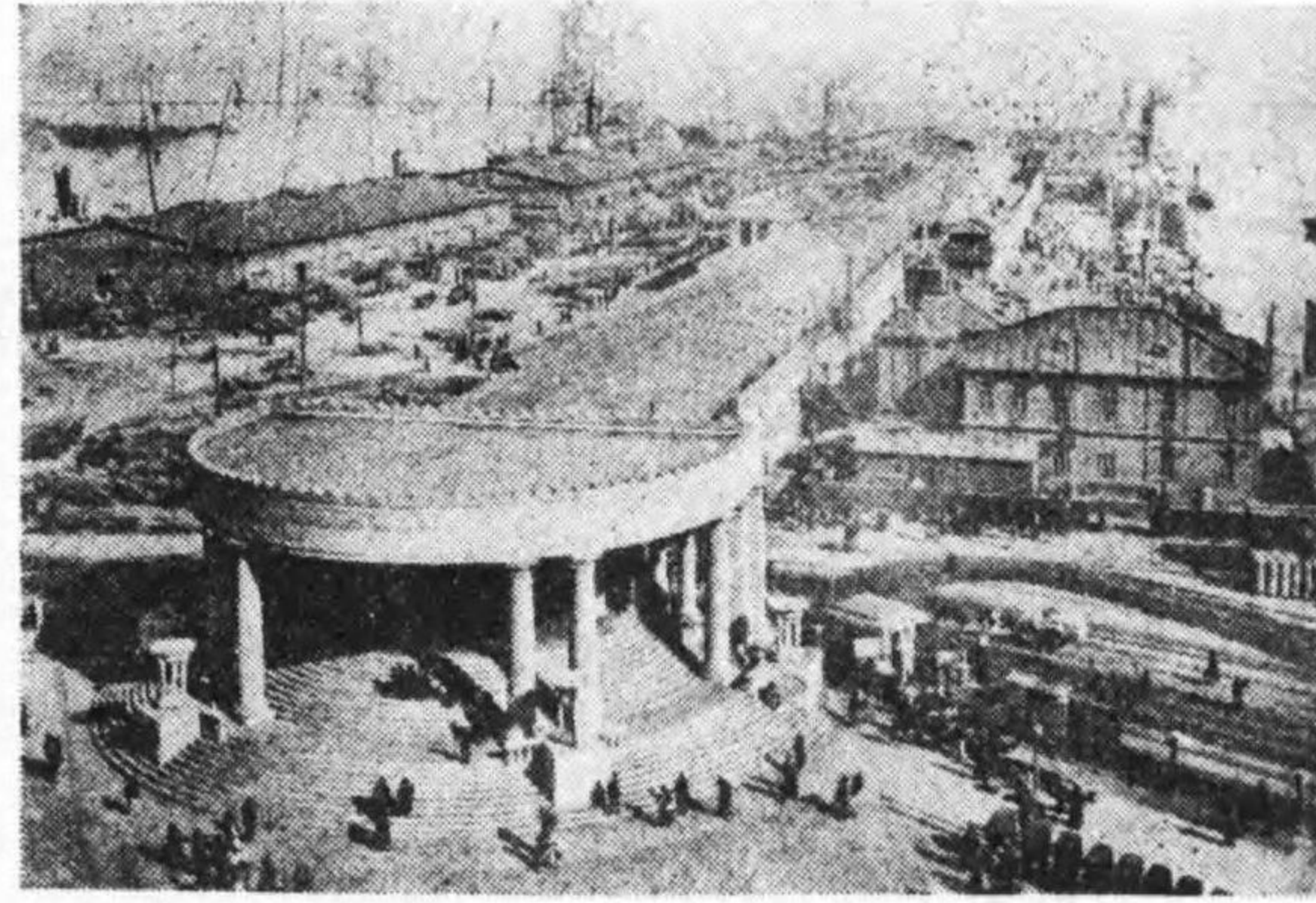


陸軍大佐 遠藤壽儼 著

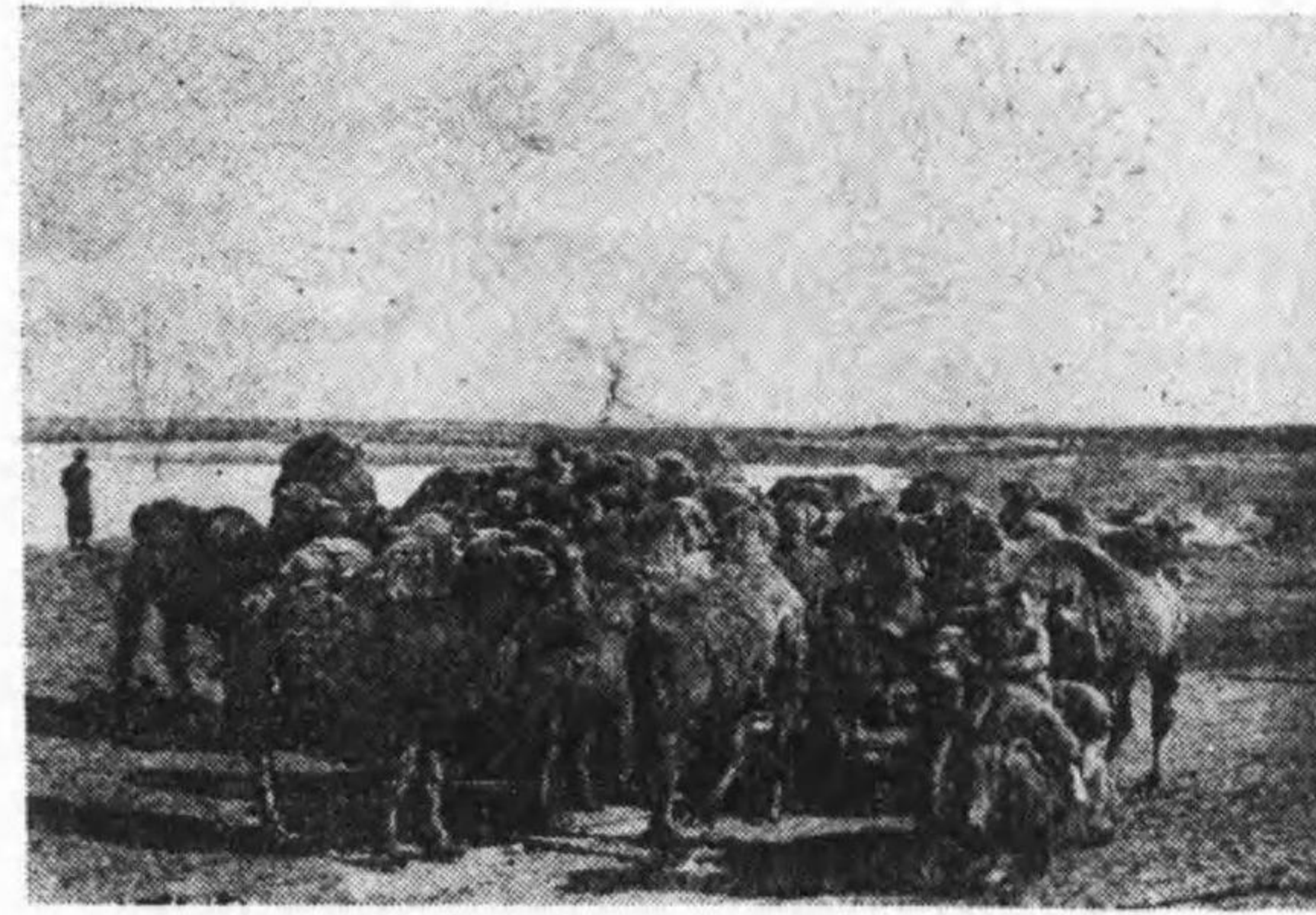
新しき
満蒙の手引

兵林館藏版



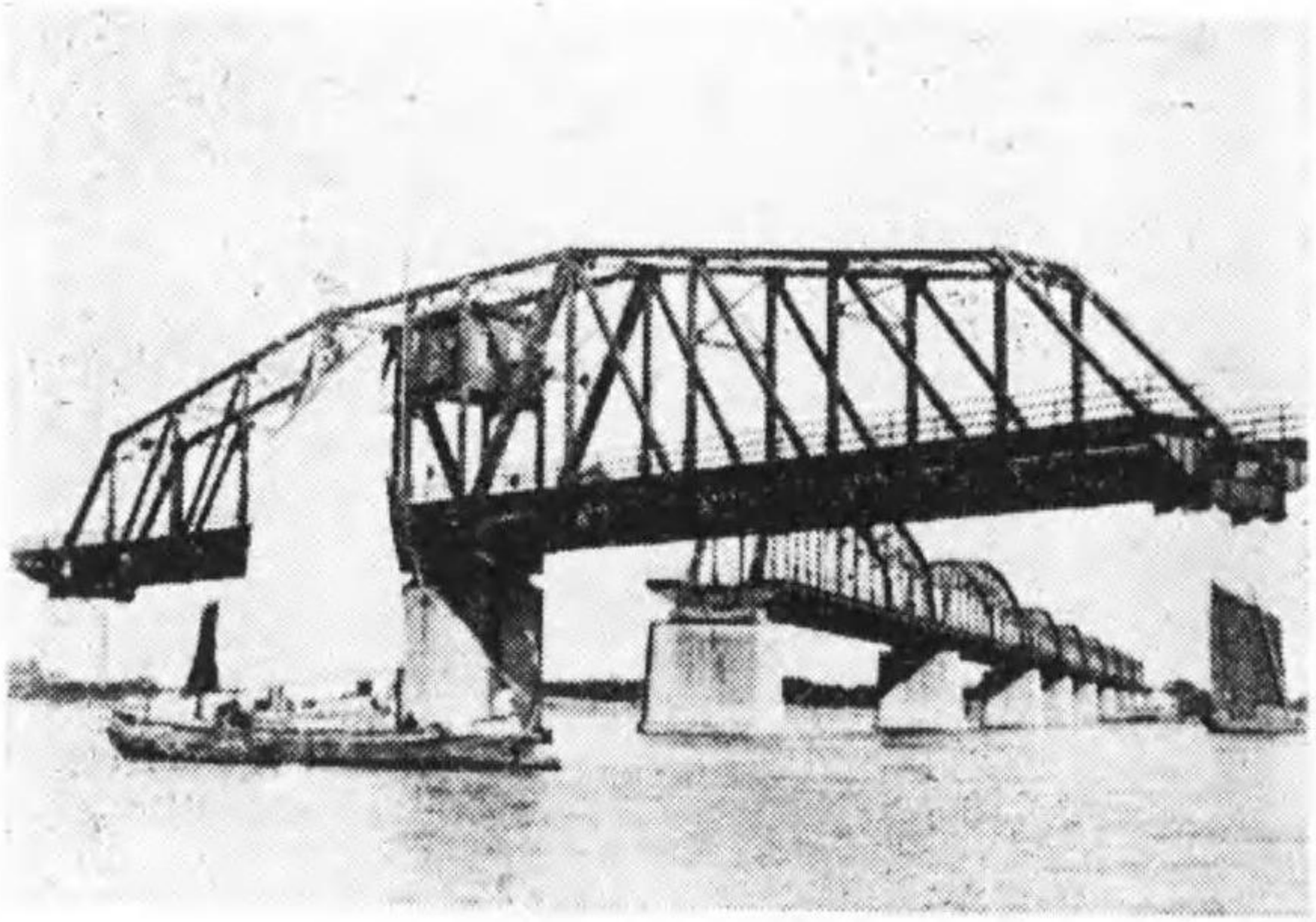
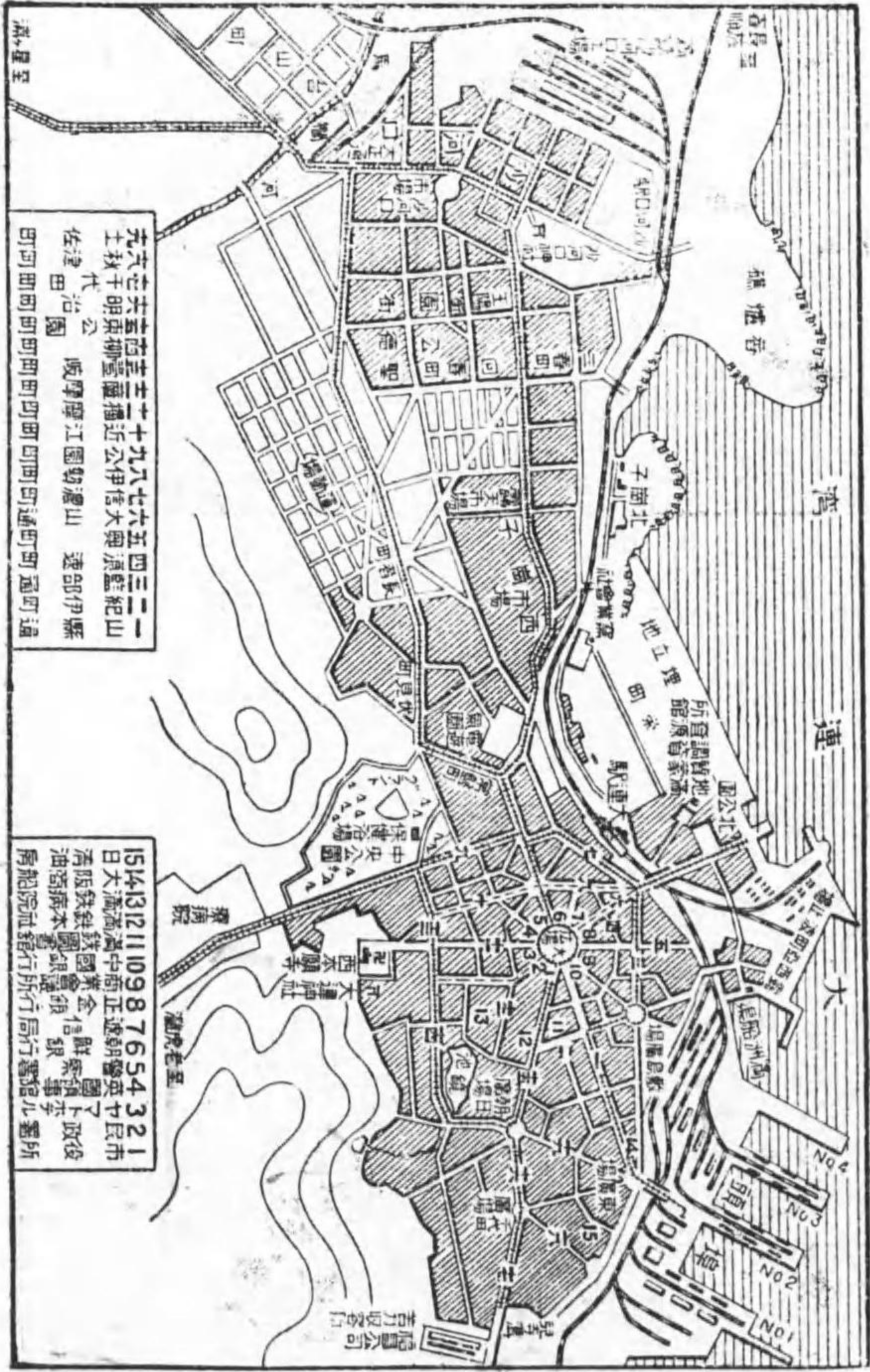


大連埠頭



蒙古の駱駝群

街市圖大



鴨綠江開閉橋



撫順炭礦露天

しき
しき 滿蒙の手引 目次

一、概説	一
二、地勢及地味	九
三、氣候	二二
四、産業の大要	三三
(1) 農業	三三
(2) 畜産業	四〇
(3) 林業	四五
(4) 鑛業	五六
目次	一

(5) 工業……………二七

五、諸物價の概要……………二六

六、生活費の概要……………二五

七、農業經營の收支採算……………二七

(1) 水田經營の收支採算……………二六

(2) 煙草栽培の收支採算……………二五

(附録)

關東洲内に於ける邦人自作農の移住に就て……………二八

八、企業の參考事項……………二五

(1) 滿蒙に於ける平均勞銀……………二六

(2) 金融機關……………二〇

(3) 電力及燃料……………一九

(4) 建築費及家賃……………一八

(5) 滿洲に於ける「ハム」製造採算……………一七

九、滿蒙移民に就て……………一六

一〇、滿蒙旅行に就て……………一五

(1) 服裝及携帶品……………一四

(2) 徑路の選定……………一三

(3) 乗車、乗船券に就て……………一二

(い) 單獨旅行の場合……………一〇

目次……………三

目次

(ろ) 團體旅行の場合……………八五

(は) 各地汽車汽船賃金……………八九

(四) 税關、通貨其他に就て……………九七

(い) 税關……………九七

(ろ) 通貨……………一〇〇

(は) 標準時……………一〇三

(に) 旅券……………一〇三

(ほ) 撮影其他……………一〇四

(へ) 土産物……………一〇五

(五) 主要都市の概況並宿泊料及車馬賃……………一一〇

(六) 一般宿泊料及旅館一覽表……………一一六

(附) 支那旅行用語……………一

序

畏くも 聖上陛下の御稜威と、忠勇義烈なる我國軍將士の不眠不休、犠牲的精神の發露に依る偉勳、及當局者の献身的努力、並熱烈なる我國民の後援等に依り、歳久しくも國際的條約を無視して、我權益を蹂躪し同胞の生命財産を侵害し、尙且つ滿蒙三千萬民衆の膏血を搾取しつゝあつた、暴戾極りなき東北舊軍閥を打破し、愈々民族的自決の下に滿蒙新國家建設せられ、今や治安維持も着々として、其の緒に就きつゝあるの現況であるから多年懸案の滿蒙問題も遠からず茲に根本的解決を告げ眞に平和的樂土理想郷が實現して、吾々有らゆる民族が安全確實なる投資のもとに、然も機會均等主義によつて共存共榮の實を見るに到るであらう、けだしこれまで、邦人が充分滿蒙に發展し得なかつた原因は、種々あるであらう

411-042

二

が要するにその基礎が不安定であつた事と、又一つには今迄邦人の滿蒙に對する認識研究が充分で無かつた爲め、組織的に進出する事が出来なかつたので、その移住人口が頗る微々たりし結果、全くその實勢力がなかつた爲であると信する次第である、故に今後はどうしても治安維持の確立と共に是非どしどしと人口の増殖を第一義とする事が最も緊要であると思ふ、そうしてこれが爲には何と言つても、先づ第一に農業移民、工（鑛）業移民並に商業貿易者の進展となり、こゝに初めて諸般の事業が經營され愈々新滿蒙の經濟的發展が實現されるのであらう。

よつてこの機に於て予が多年種々の危険を冒し、死線を越えつゝ親しく踏査研究して得たる體驗を基礎として、滿蒙の真相現狀を廣く社會に公表し、以て聊か滿蒙に發展せんとする人々の參考に供する爲め、茲に拙き筆を執る事にした。尙滿蒙の詳細に關する事情を研究せんとする人々は「沃野千里滿蒙の寶庫」を一讀されたし。

(附)

今こゝに滿蒙と稱する地域は、遼寧省即ち元の奉天省及吉林省、黑龍江省、熱河省の外に東部内蒙古の内主として東三盟（哲里木、卓索圖、昭烏達）の範圍を指すものである。

昭和七年二月

遠藤壽儼

滿蒙の手引

一、概説

今回の滿洲事變で滿蒙の事情は、大分一般の人々に認識理解されたやうであるが、未だ多くの人の中には、滿蒙といへば直ちに曠漠無邊の砂漠乃至は不毛の土地や、到る所馬賊横行の事などを聯想して、兎角滿蒙は恐い處、無味荒寥な處、大變寒い處だと思ふてゐる人もあるであらうが、然し現在の滿洲は交通機關もよく整ひ、隨處に日本内地以上の文化都市が出來、また警備に必要な日本の軍隊も駐屯し、教育、衛生などの機關も完備し、且色々の産業が發達

しつゝある實況であるから、最近の如き特別狀勢にある、馬匪賊は別として今後一通り治安維持が保たれるやうになれば、今のやうにそんなに何時迄も馬賊がひどく跋扈する事もあるまいと思ふ。最も普通の強盜泥棒の類なら、我内地の主都である東京や大阪の眞中にも居るやうにこれは何處も同じことで、獨り滿洲に限つた事ではないのである。

それから滿蒙は大變寒い處だといはれて居るが、なるほど滿蒙は處によつては日本より寒いには寒い、けれども大陸は空氣が乾燥してゐるから、寒暖計の零下何十度といふ割合には身體にこたへない。それに滿蒙には防寒暖房の設備がちゃんと出來てゐて、家の中など極寒でも、六、七十度位に暖められるやうになつて居る。現に滿蒙にゐる日本人の子供達約二萬人は、皆んな寒中でも平氣で休みなしに學校に通つてゐるくらいであるから、寒さはさほど恐れる事はないのである。

そも／＼滿蒙の廣さは約八萬有餘方里であつて、我國の四萬四千方里に比べると殆んど二倍である、そしてその人口は現在約三千二百萬人に過ぎないので、一平方里僅に四百人、今之を我國の人口約九千萬人一平方里約二千人にくらべると人口密度は約五分の一に過ぎない、だから將來我内地と同様の密度に人口を收容し得るものとすれば尙現在の五倍の人口即ち約一億六千萬人を收容することが出來ると云ふわけであるが、マア一最小限に見積つても未だ一億人位ははいるであらう。

日本では一番廣い關東平野である其の武藏野はお月様が草から出て草に入ると誇つてゐるが然し日中は秩父山や筑波山などの山々も見えるし、また快晴の日には富士山も見える程度の平野であるが、滿蒙の平野は數日間太陽が地平線から出て地平線に入ると云ふ眞に一望千里まるで海原のそのやうである、そしてそこには吾々が滿蒙のものとは知らずに朝夕食べてゐる、

豆腐やお味噌の原料である、大豆約四千萬石も出来、世界中で生産する大豆の約七割を占めてゐるのである、其他高粱(唐黍)三千七百萬石、粟二千八百萬石、小麥、米、麻、煙草、野菜、果物などなんでも豊富に出来るのである、米はまだ百五十萬石位しか生産してゐないが、尙年々増加しつつある有様である。また山からは日本になくはない鐵や銅や金、銀、石炭殊に撫順炭坑は十億噸、現在年額六百五十萬噸から七百萬噸位づつ掘つてゐるが今後尙二百年ぐらゐは大丈夫だといはれ炭質も仲々よろしい。それにまた有名な露天堀は誰が見てもびつくりする程で、只地面の上土を剝ぎ取つて大きな池のやうな處から、順々に石炭を取り出してゐるのである。この外まだ手をつけぬ新邱といふ處にも埋藏量約二十億噸と稱せられてゐる、炭質のよい大炭田が我權利に屬してゐるのである。

又かの鴨綠江をはじめ松花江、牡丹江など滿蒙一帯には材木凡そ百五十億萬石もあつて關東

大震災の時も澤山輸入されたのである。かやうに滿蒙は野に山に富源が横つてゐる、この豊富なる原料と安い勞力や燃料を利用して年々製油、製粉、製酒、製糖、製絲、紡績、機械業など色々の工業が續々起りつつあるので企業家の欲する條件の大部は滿蒙に具備して居るといふべきである。現在日本内地の企業はすでに行きつまつてゐる状態から我國の前途を思へば、この滿蒙新國家の建設、治安維持の確立と共に、逐次この新天地に向つて吾々は進出を斷行すべきである。

けだし滿蒙の開発は人口問題及食料問題の爲め、殊に我國防問題のため吾々大和民族の生存上是非緊要であると共に、又實に日滿共存共榮の爲尙進んで世界人類の福祉増進に貢献する爲め最も緊要缺く可らざるものである、今日迄吾々日本人の成せし努力經營は如何に滿蒙の文化を促進せしめたか、又如何に世界の物資需給を増進せしめたか、そして又東洋平和の爲、如何

に努力して来たか、これ等は皆滿、蒙、支人も又歐米各國人も等しく知得する、所であつて又彼等を如何に利益せしめて居るかは既に蔽ふべからざる事實である。

抑々我國は日清及日露の戦役に於て、貴き十餘萬の生靈を犠牲にし二十餘億の國帑を費し、全く國運を賭して滿蒙に於ける諸權益を獲得せし以來、更に十八億に近き投資を敢てし、滿鐵會社の如きは實に七億圓に近き資本を投じて鐵道、水運、港灣、倉庫、炭鑛、製鐵等の諸經營を爲す外、沿線各附屬地都市の經營即上下水道、道路、公園、圖書館、消防、屠獸場、設備完全なる病院等を初め有ゆる學校及幼稚園を設け、尙産業の助成獎勵に就ても種々の便宜をはかる等、専ら滿蒙の開発文化に貢献してゐるので、中華民國人も又諸外國人も我文化施設を利用しぞくぞくと我滿鐵附屬地に來住しつゝある状態であつた。

然るに近年暴戾極まる東北舊軍閥の非人道的行動は我國民の生命財産を侵害し或は我條約及

權益の蹂躪を敢てしその結果終に昨年九月滿洲事變の勃發となり、茲に精銳なる我軍の奮闘努力によつて、徹底的に舊軍閥を打破し、愈々茲に民族自決の滿蒙新國家建設を見るに到り、今尙治安確立の途中にあるも、將來その確保と共に、日滿提携して共存共榮の實を擧ぐるの時期も遠からず到るであらうと思ふ、此の時こそ吾々大和民族は充分なる準備と覺悟決心とを以て滿蒙に發展すべきである。

扱この滿蒙の南方、關東洲の一角にある大連までは、門司から僅か二晝夜、十七圓で六千噸級の氣持のよい大阪商船の定期船によつて行く事が出来る。而してそこには、ゆつたりとした廣軌の汽車、歐米式の立派な道路と家屋、最新文明の施設を完成した人口二十萬の大連市があり其他滿鐵沿線の地には人口三十萬の奉天、十五萬の長春、竝に東支鐵道線上のハルビンなど我國に於ける田舎の都市など、とても及ばぬ程整然とした、あかるい都市が大小二十餘もあつ

て、そこには到る處氣持のよい日本旅館があるから、滿蒙旅行に際して少しも不安や不便はない、近來内地から實業家や學生團殊に女學生などまで、續々と手輕に旅行に出かける向がすくなくない状態である。

但し終りにのぞんで一言斷つてをくが、現在滿蒙は既述の如く尙治安維持が充分に確保されてゐない爲め、まだ奥地の旅行は不安であるのみならず、最近新國家が建設されたといふので利權屋やルンペンたちが何等の成算目途もなく、ぞくぞくと滿蒙に押しかけて行く人々が多いやうであるが前申す通り未だやつと、この頃新國家が生れたばかりで大部分尙建設の途中にあるのだから、移住や就職口等もそんなに容易に得らるゝ筈のものではないから、今暫く準備と研究を重ねをき、愈々秩序が回復して各種の事業が起る時期になつてから行かないと、嘗に徒勞に屬するばかりでなく、終に失望して再び内地に歸らなくてはならぬやうな、破目に落ちる

であらふと思ふから充分自重を望む次第である。之が爲め先づ一通り書物にて研究した上、一度渡滿視察する事が有利である。

(附) 尙參考の爲茲に一言すれば、將來滿蒙の新天地に於て第一に起るべき事業それは土木工業就中各種道路の開設乃至鐵道の新設であらう、而して之と前後或は平行して農業及工業(鑛業)移民が實行され漸次有ゆる商業貿易の進展となるであらうと信ずるのである。

二、地勢及地味

滿洲と蒙古とは昔は邊牆と萬里の長城とによつて確然と區分されてゐたのであるが、現在その區界は全く不明瞭で、何處までが滿洲で又何處からが蒙古であるか、ほとんどわからないやうな有様である。又南北滿洲といふのもその區界は種々の説があつて一定してゐない、だから

予はここに一括して東は鴨綠江及ウソリー江、北は黒龍江から西は大興安山嶺、南は萬里の長城を以て圍まれて居る、滿蒙約八萬有餘方里の區域について述べることにする。大體に於てこの地勢は東方長白山脈地帯は、皆承知の通り山地であつて滿鐵線の東方に連り、北は黒龍江附近に於ける小興嶺山脈が連亘し、西は傾斜緩なる大興安嶺の横はるあり、又南方は萬里の長城に沿ふ陰山山脈が巍峨として聳えて居るが、其の他は大部分平野であつて、殊に四平街附近から西進して、大興安嶺の東麓なる大板上附近に到る約百三、四十里の間及陰山山脈の北麓から北索倫山南麓に到る約百餘里の間竝哈爾賓及安達附近を中心とする地方は、實に一望千里の大丘阜地乃至大平野であつて、この間處々砂丘及濕地帯あるも、その大部は地味頗る肥沃の既墾地乃至は耕作可能な處女であつて、私の見た處では北海道附近よりも遙かに地味は肥沃である殊に安達附近を中心とする平野の如きは、實に稀に見る大豊饒地であつて、俗に穀倉とまで云

はれてゐる、また南滿洲鐵道に沿ふ地區並に東支鐵道沿線も、土地肥沃なる丘阜地乃至大平野であつて、到る處よく開墾され殆ど邦人の割込むやうな地は少ないのであるが、然し以上述べたる通り隨分廣大な滿蒙地域の事であるから、殊に北滿及び舊蒙古地帯にはまだまだ廣大なる可耕處女地が澤山存在して居るのである。

三、氣 候

氣候は概して大陸的で一體に雨少く、空氣は頗る乾燥してゐる、夏の晝午前十時頃から午後三時頃までは随分熱いが、夜になると急に涼しくなるし、又冬十月頃から翌年の三月頃迄は随分寒いが、然し暖房設備がよく行届いて居るから、室内に居れば内地よりも却つて凌ぎ易いぐ

らである。其の温度は勿論場所によつて異なるが、一般に春秋の期間が短く冬季が長い、而して先づ關東洲附近は我國の山形乃至秋田附近ぐらゐ、奉天附近から長春附近は我國の北海道ぐらゐで、北滿地方は南部樺太ぐらゐの氣候であつて、かの西比利亞ロシアや又世界の理想的農業國である、デンマークや加奈陀のやうにそんなに寒さが烈しくないのである、現に奉天長春及ハルビン附近でも多數の外國人が安住して居るのを見ても、そんなに大した事はない、一番寒いのは十二月、一月、二月頃であるが其の内にも三寒四温と申して寒い日が三日續くと後四日は温かい日があるのである、而して滿蒙の乾燥期は一、二月頃雨期は六、七、八月頃であるが降雨量は左程多くない、三・四・五月頃はかなり風の多い事があるが然し大體に於て氣候の事はさほど氣にかけ必配する必要は無いのである。五、六、九、十月頃は最も旅行するによい。

四、産業の大要

(1) 農業

滿蒙に於ける可耕地面積は、我國の耕地面積約九百萬町歩の三倍以上、即約三千萬町歩であつて、その地味は既述の通り肥沃なる處多く、此の内既に開墾されて居る田畑は合せて約一千五百萬町歩である。そして現在これらの耕地から生産してゐる穀物は平年作でも大豆約四千萬石を大宗とし唐黍（高粱と稱す）約三千七百萬石、粟約二千八百萬石、玉蜀黍約一千五百萬石小麥約一千萬石、其他の雜穀約二千萬石（内水稻約百五十萬石、陸稻約百六十萬石）合計一億五千萬石に達し、この外尙未開墾の可耕地處女地約一千五百萬町歩を存してゐるのである、米は

前述の如く今の處では僅かに百五十萬石、此の外陸稻百六十萬石に過ぎないが、今後水利を適當に施せば、將來約五十萬町歩の水田經營可能であつて、これらから約一千五百萬石の生産可能性があるから、優に我國の不足米を補なつて尙且つ餘裕があるわけである、蒙古に於ける邦人の水田經營は大正四年八月頃予等が農商務省の委囑を受け其の調査の結果、當時滿洲鐵嶺に在つた陳列館長早間正志氏（在郷軍人憲兵少尉）が朝鮮人を招致して、大正八年開設したのが初めで、現在通遼附近の公濟號農場がこれである。それから東京の大倉喜八郎氏がこれに次で現在の開魯東方華興公司農場を開拓したのである。

(い) 大豆

滿洲大豆は大別して黄豆（俗に白豆）青豆、黑豆であるが、尙その外種類は實に澤山ある、最も普通なのは黄豆であつて、これを元豆とも稱し含油量最も多く、それ故に搾油用並食用の何れにも適し、最近又これが肥料として、日本内地の需要を喚起せし以來驚くべき發達をとげた現在日本内地に於ける豆腐原料の如きはほとんど大部分滿洲産である。將來尙化學の進歩につれて、豆油其他の需要激増するに従ひ、滿洲大豆の價値は益々大となるであらう。最近の年産額は前述の通り約四千萬石と算定されてゐる。

(ろ) 唐黍（高粱）

唐黍は大別して糯及粳の二種とす。粳は更に品種が澤山ある、我國に於ける米と同様滿蒙地方の主食料品であるから、その作付はかなり多く年産額三千七百萬石といはれて居る。その用途は食用の外、家畜の飼料、焼酒（高粱酒）の原料となり、その稈は燃料建築材料及アンペラ、等の製造材料となり又近來パルプの原料にも利用されて居るのであつて滿蒙人には缺くべからざる主要穀物である。

(は) 粟

粟も仲々品種が多い、高粱と共に重要な食料品である。又黄酒(ほわんちゆう)の原料ともなり、その殻は牛馬の飼料として缺くべからざるものであり、その糠は豚の飼料として重寶がられて居る、大豆と共に盛に栽培されその年産額は二千八百萬石といはれ、又朝鮮人の食料として該地に輸出せらる數量は頗る多大である。

(に) 玉蜀黍

これは包米(ばをみ)と稱へ黄包米、紅包米、老米皺の三種を主とし、主に南滿洲の南部及北滿洲の一部に栽培され、これ又重要な食料品の一つである。そして高粱と等しく焼酒の原料となり、莖は燃料とし其の葉は牛の飼料にする、年産額現在は一千五百萬石に達して居るのである。

(ほ) 小麥

小麥は叙上の各農産物に次ぐものであつて、その製粉業は搾油業と共に滿蒙に於ける重要工業である、そして北滿洲を主なる産地とし年産額一千萬石以上と稱せられてゐる、今後黑龍江省の開拓と共に將來益々その生産増加を期待されて居る。

(へ) 米

米は滿洲農民にとつては頗る貴重なる食料品である、現在陸稻約百六十萬石、水稻約百五十萬石の生産があるが水稻は滿鐵農事試験場其他の成績に徴しても將來甚だ有望であつて、ほとんど移住朝鮮人によつて耕作され、その水田の開拓は年々増加の傾向にあるので、現在の水田は僅か五萬町歩位に過ぎないのであるが、將來の豫想水田面積は五十萬町歩乃至百萬町歩と推定する事が出来る。この外普通作物としては小豆、苡豆、黍、蕎麥、稗、馬鈴薯等が耕種され

て居る。

(と) 特別作物

特別作物には大麻、青麻、煙草、綿、胡麻、蓖麻、荏(蘇子)落花生、及西瓜アスパラカス、白菜其他の野菜がある。大麻及青麻は年産額五千萬斤に達し煙草も吉林省を主とし年約五千萬斤に達して居る、綿は遼陽以南及錦州附近に多産し、尙新しき農作物としては製糖原料たる甜菜栽培の有望なること、又亞麻の栽培も有望視され、紡績事業の發達にともなひ綿花の栽培は頗る有利と目され、目下は煙草と共に綿も又アメリカ種を栽培して居るがその成績は頗る良好だと云はれてゐる。又奉天以南殊に熊岳城三十里堡金州及大連附近は最も果樹の栽培に適し、林檎、梨、葡萄、櫻桃、莓等は近年優良種の普及に伴つて大いに見るべきものがある。

(ち) 耕作並に經營

滿蒙の從來農業は一見極めて粗放のやうであるが、然し概して氣候風土に適合したやり方である。耕作には主として牛馬を役使して犁すきを利用し、人力を節するなど我國の農法とは若干趣を異にしてゐる。又肥料は主として家畜糞、人糞等を肥土に混化せる土糞であつて、普通二、三年に一回内外施肥して、まだ一般に化學肥料は使用していない。經營は自作農及小作農、四六法、外に分益小作法及請負法等であつて、大中小農の區別は地方によつて異なるが、大農には五十町歩乃至百町歩位を自作するものもある、中農は二、三十町歩から四、五十町歩位で小農は五、六町歩から二十町歩内外、又僅か二、三町歩位の小農も少くない、尙滿蒙には農業労働者といふグループがあつて、その多くは山東及直隸方面から主として農業労働に従事するため出稼に來るもので、一箇年の出稼数は年平均六十萬人乃至八十萬人と稱せられこれに避難民及河南湖北方面よりの移住定着民を合する時は實に百萬乃至百四、五十萬の多きに昇つてゐる

現に昭和四年の如きは百五十萬以上を突破して居るのである。

(2) 畜産業

家畜は牛約二百四十萬頭、馬約二百六十萬頭、騾及驢馬約百萬頭、羊約三百萬頭、豚約六百萬頭合計一千五百萬頭と稱せられ、予が先年調査中目撃した一馬群の如きは實に一萬頭以上の數に達するものさへあつた。羊毛の如きは現在僅かに年産額約五百萬斤位であつて、今の處その品質もあまりよくないが、然し從來滿鐵會社の施設で漸次メリノー種に改良されつゝあるから將來は約一千五百萬斤以上の生産見込がある、又豚も牛馬も漸次改良計畫が實施されつゝ有るから將來はこれも益々有望である、この外皮革、毛皮、牛骨等々露西亞及歐米に輸出される數は決して少くないのである。

(い) 馬

滿蒙の地は駿馬を出す自然の馬産地であつて、其の産馬は全部蒙古系である。體高四尺二、三寸、體長四尺五六、寸、體重七、八十貫を普通とし、その體軀は矮小であるが、各部の均合が良好で且つ體質極めて強健であつて、粗飼、粗放なる管理に堪へ持久力に富み、然も酷暑零下三、四十度の露天に放牧起臥して平然たるものである、滿蒙に於ける馬匹の頭數は約二百六十萬頭で、遼寧省、八十萬頭、吉林省五十萬頭、黑龍江省五十萬頭東部内蒙古八十萬頭である。時期と地方によりて一定せざるも概ねその價格は七、八十圓から百五六十圓位で、最良なるものは二百圓以上とするのである。

(ろ) 騾

騾は牝馬と牝驢の交配によつて産する雜種であつて、歐洲及支那に於ては古くより知られて居たが、我國にはこれを見ない、騾の體軀は交配種の大小によつて異なるが、概して馬よりも大

形である、それは騾の畜殖に用ひる驢馬が大驢と稱する大形のものであるからである。騾は耕作運般に使用され、堅忍よく重使役に服し其の使用期間永く、然も粗飼少食、粗管理に堪へ頗る経済的である、其の頭数は奉天省約二十萬頭、吉林省二十萬頭、黑龍江省十萬頭、内蒙古が五萬頭計約五十五萬頭である。

(は) 驢

普通に使用するものは、小驢である體高は僅か三尺位であるが、體質頗る強健で、よく粗食に堪へ體軀の小なる割に比して、その力量が割合大なる爲、農耕用のみならず家内労働及駄用として適當である。其の價格廉なる爲多く民家に飼用されてゐる。滿洲に約四十萬頭、内蒙古に約五萬頭計四十五萬頭と推測されて居る。

(に) 牛

牛は朝鮮牛系統、山東牛系統、滿洲牛系統及蒙古牛系統等であるが、前二者は其數極めて少なく、大部分は蒙古牛と滿洲牛である。支那人は力役の爲に又蒙古人は乳を取る爲に飼養し、肉は副産物として居る有様である。滿蒙の牛は後軀の發育不良であつて、各種経済的能力は劣つてゐるが、堅忍、從順にして寒氣並に粗飼、粗管理に堪へ、力役用として頗る適當なのである。體量は普通七、八十貫位で最大百二、三十貫であるから、肉量もあまり多くはない。且その草牛の味は朝鮮牛及び山東牛に及ばないが、然しよく肥育を施したものは、その肉量及肉味ともにあへて朝鮮牛及び山東牛に遜色はない、乳量は僅少であるが肉量の増大を計る爲には、最近滿鐵にて米國種の短角牛(せうとほしん)を種馬として改良に着手をして居る。牛の頭数は奉天省約八十萬頭吉林省二十萬頭、黑龍江省四十萬頭、内蒙古約百萬頭合計二百四十萬頭と稱せられてゐる、其の價格は時期と地方によりて異なるも普通五六十圓から七、八十圓位である。

(ほ) 綿羊及山羊

ともに蒙古種であつて従来は肉用及び毛皮用として飼育され、羊毛及絨毛は副産物として取扱はれてゐたのであるが、近來はメリノウール種を種付としてこれが改良を計ると共に、羊毛の改善をも圖つて居るのである。普通の価格は五、六圓から七、八圓である、その頭数は奉天約四十萬頭、吉林省、十萬頭、黒龍江省十萬頭、内蒙古約二百四十萬頭合計約三百頭である。

(へ) 豚

豚は支那人(回々教徒を除く)の最も重要視する處で、農家は肥料と畜産収入を目的として毎戸必ず數頭乃至十數頭多きは數十頭を養つて子豚の生産をなし、その糞は肥料とするのである。近來はその種類改良されバクシー等の優良種が飼育されるやうになつた。その頭數甚だ多く奉天省約三百五十萬頭、吉林省約百二十萬頭、黒龍江省約五十萬頭内蒙古八十萬頭合計約六

百萬頭と稱せらる。

(3) 林業

滿蒙の森林としては鴨綠江、松花江、牡丹江及豆滿江上流一帯の地域竝に、東支鐵道の東部及興安嶺北部が主なるものであつて、其の樹の種類は約參百餘種にわたつてゐる、其の内最も必要種と見らるゝものは二十種内外である。

就中、針葉樹では朝鮮松、縦、蝦夷松、唐松等、又闊葉樹では楊樹、楡樹、榆樹、胡桃、どのの木、柏、楓等である。その量は約百四、五十億萬石といはれ、吉林及安東は古來滿洲に於ける木材の主なる集散地であつて、針葉樹は建築材料として天津方面に輸送せられるもの最も多く、又枕木、電柱、棺材等として地方消費も少くない。闊葉樹は主として枕木、杭木、マツチ材及薪炭原料等として使用する外未だ多くの工業的利用を見ない。

安東の鴨綠江採木公司、長春豊材公司、吉林の共榮會社、ハルビンの札免採木公司、中東海林公司等は主なる林業會社であつて其外、個人經營のものも又少くない。

(4) 鑛業

滿蒙に包藏されてゐる重要鑛物は多種多様であるが、先づ第一位を占むるものは石炭である。その産地は撫順、新邱等の大炭田を初めとし本溪湖、煙臺、札賚諾爾、索倫等の箇處數十を算し、その埋没量實に三十億噸乃至四十億噸と稱せられて居る。その内撫順は滿鐵これを探堀し本溪湖は大倉組が探堀してゐる。

石炭の外その量大なるものは先づ鐵鑛にして其の他金、銀、銅、鉛、オイルセル、マグネシウム、硅石、大理石、滿俺、アルミニウム等悉く包藏されて居るのである。予が今日迄に調査し得たる金鑛の如きは、實に多數であつて、現在支那人の手掘により年々約一千萬圓ぐらいを採取して居る様である。その最も多量なる地方は黒龍江右岸地區並錦州の西北方朝陽及建平附近である。その外曹達の如きも多量に散在し、食鹽は關東州だけでも現在五億萬斤の生産をして居る。尙需要があれば十五億萬斤ぐらいの増産を見る事が出来るのである、故にこれを原料としての曹達灰工業が計畫されてゐるわけである。

(附) 又かの醬油の調味品及び仁丹其他の製藥に利用される甘草の如きは蒙古奥地に行けば數十里にわたり無限に野生してゐる。現在邦人の手に依り甘草エツキスとして各地に輸出して居る。

(5) 工業

工業は滿洲にて三大工業と云はれて居る、かの大豆を中心とする油脂工業及び小麦を原料とする製粉業並に唐黍を利用しての酒造業を初めとし、柞蠶製絲業、養蠶製絲業、毛織業、綿花

を主とする紡績業其他製麻業、製紙業等の所謂繊維工業等を主とし其他化學工業では石鹼、燐寸、硫酸、オイセール、製鹽業、曹達灰工業、マグネサイド工業、塗料、染料及び製藥、製糖業、醬油製造業、酒精工業其他諸種の機械工業、製鐵、セメント石灰製造、瓦及煉瓦、ガラス陶器、製材業、煙草製造業、皮革工業並に緞通製造業、電氣及び瓦斯工業、火藥製造業等實に多種多様であつて、その原料も品物によりては頗る豊富であるから、經濟上所謂滿蒙は帝國の生命線たる所以である。

六、諸物價の概要

物價は其の時期と場所とに依り差あるも、今参考の爲め最近の滿蒙地方に於ける物價の概要

を述べれば左の通りである。

(い) 食料品

品目	單位	價格
白米	三斗入一呎	六圓五拾錢
麥粉	百斤	五錢
牛(ロース)肉	百斤	五拾錢
牛(上)肉	百斤	參拾五錢
牛(普)肉	百斤	二十錢
豚(上)肉	百斤	三十錢
豚(上)等	百斤	五十錢
雞(上)等	百斤	五十錢

物價の概要

物價の概要

品目		單位	價格
雜豆 梅澤 澤	雞卵 (上)	十個	二十八錢
	腐干	百匁	參錢
	鹿茸	百匁	二十錢
	椎茸	百匁	五錢
鹽	鹽	一百斤	一圓八拾錢
	鹽 (赤)	一百斤	四拾五錢
味噌	味噌	一斤	二錢
	味噌 (龜甲萬)	一斤	五錢

(は) 飲料嗜好品

品目		單位	價格
醬油 (滿洲產)	醬油	一斤 (百六十匁)	四拾錢
	白砂糖	一斤	九錢
	味の素 (いかり印)	一罐	二十八錢
	味の素	三十五匁入一罐	八拾五錢
鰹節	鰹節	百匁	一圓五拾錢
	鰹節	百匁	三十錢
日本酒 (白鶴)	日本酒 (滿洲物)	一升	一圓八十錢
日本酒 (滿洲物)	日本酒 (白鶴)	一升	九十錢

物價の概要

物價の概要

煙草(朝日)	煉乳	牛乳	茶(正喜撰)	サイダー(三ツ矢)	ビール(札幌)
二十本入	一罐	一含	一斤	一本	一本
拾貳錢	參拾錢	六錢	一圓	二十錢	二十八錢

(に)料品

品目	單位	價格
晒木巾	一反	四拾錢
金	三尺巾一尺	九錢

(ほ)燃料

綿ネル	モスリン(白一號品)	かたんいと	毛糸	布團綿(上綿)
七錢	二十錢	五十五錢	二圓	二圓四十錢
尺	尺	卷	ボンド	貫目

品目

石炭(撫順塊炭)	木炭(小丸八貫入)
噸	俵
十三圓乃至十五圓	一圓五十錢

物價の概要

六、生活費の概要

生活費は日支人共各々その境遇ならびに場所により一定せざるも今、日支人に就て其の標準を示せば左の如し。

- (1) 支那人一人一箇年に於ける食費は二十六圓乃至三十六圓内外にして其の内譯左の如し、
- | | | |
|--------|-----|----|
| (い) 高粱 | 二石 | 九圓 |
| (ろ) 粟 | 一石 | 七圓 |
| (は) 麥粉 | 四十斤 | 四圓 |
| (に) 食鹽 | 十斤 | 一圓 |

(ほ) 豆油 十斤 二圓五十錢

(へ) 肉類 (祭祝日のみ) 十斤 二圓五十錢

但し野菜及味噌醬油等は全部自家製の物を用ふ。

(2) 衣服費 貳拾圓

(い) 單衣 一着 三圓五十錢

(ろ) 袴衣 一着分 六圓

(は) 綿入 一着 七圓五十七錢

(に) 帽子及靴、足袋一揃 三圓

(3) 雜費 十五圓

(い) 寢具品 六圓

生活費の概要

(ろ) 高熱費 四圓
(は) 其他の交際費 五圓

以上合計平均一人一箇年當り生活は金六拾圓あれば足れり、但しこれは中等程度の生活であつて、最下級の入夫の如きは夫婦に子供三人計五人家内にて、一日平均三十錢即一箇月九圓にて生活してゐるものもすくなくない、又予が雇用せしボーイの如きは一箇月三圓にてかなりの生活を爲せし事を見せり。

(4) 日本人の生活費

日本人は第一米飯を食し時々は百匁七、八拾錢もするやうなマグロの刺身などを取る習慣がやまない間は如何に節約しても一箇月一人宛十圓内至十五圓の食費を要する、若し滿蒙に生産する物資即肉食及うどん等を用ふれば毎日好きな晩酌二本位飲んでも一人當り拾圓あれば生活

出来るのである、それも支那人に、較ぶれば餘程贅澤な生活であつて尙節約すれば最小限八、九圓あれば生活は大丈夫であると思ふ。

これを要するにすでに述べたる如く日本の物資による事なく、滿蒙の物資を用ふれば一體に物價低廉であるから、内地よりも生活費は安價で済む譯である。家賃の如きも通普建坪二十坪乃至二十五坪位の煉瓦造家屋は大連及奉天長春等各其の場所により若干差あるも平均三十圓乃至五十圓程度である。

七、農業經營の收支採算

滿蒙に於ける農業經營に就ては悲觀説と樂觀説との二つあるが、予は其の經營の手段方法を研究するに於ては強ち内地の農業にたいして劣らざるものと信するのである。即ち邦人とし、

は根本に於て資本と知識とを以てこれに臨み、然してその農業勞力はこれを家畜及生活の低廉なる滿蒙人乃至は朝鮮人に求むるを要す、然る時は必ずやその成果見るべきものありと信ず。現に其の實例があるのである(例へば大連沙河口郊外に於ける粟屋万衛氏の農場の如き)。よつて今一、二從來に於ける農業經營の收支採算に就き左に述べて參考に供す。

(1) 水田經營の收支採算

(一) 所要資本

土地資本	四、〇〇〇 _円	(反當八〇圓にて五町歩買入代)
建築物	六〇〇	(支那式家屋住宅、事務所、農具置場等一切を含む)
農具	二〇〇	(農具一式)
役畜	二〇〇	(牛二頭單價一〇〇)

合計 五、〇〇〇

(二) 收支計算

(1) 支出之部

種別	數量	金額
整地費	三〇〇 _人	一二〇、〇〇
種子代	四 _石	四八、〇〇
播種	七五 _人	四五、〇〇
除草	三〇〇	一八〇、〇〇
刈取	一〇〇	六〇、〇〇
運搬	五〇	三〇、〇〇

農業經營の收支採算

農業經營の收支採算

調製	一五〇	九〇、〇〇
灌漑費		五〇、〇〇
税金 (地租及地方税)		二五、〇〇
飼料費		二一九、〇〇
建設維持償却		六〇、〇〇
農具修繕修却		三〇、〇〇
土地資本償却		六〇、〇〇
役畜償却		一〇、〇〇
雜費		五〇、〇〇
計		一、〇七七、〇〇

(ろ) 収入之部

種別	數量	金額
粃	一五〇 <small>石</small>	一、八〇〇、〇〇 <small>円</small> (反當り三石)
粟	三、〇〇〇	一二〇、〇〇〇 (石當り六十貫)
計		一、九二〇、〇〇〇
差引利益金		八三、〇〇〇

これを固定資金五千圓に對比する時は其の利廻一割六分八厘となる。

右計算は自ら土地を購入して自作したる時の豫算なるも、若しこれを分益法によりて小作せしむる時は次の如き計算となる。

(二) 所要資本

農業經營の收支採算

農業經營の收支採算

土地	四、〇〇〇 ^円
建物	二〇、〇〇〇 (建物は農舎及小作人宿舎)
計	四、二〇〇、〇〇〇

(二) 收支計算

(い) 支出之部

管理費	一〇八 (糶賣價の一割二分)
税金	二五 (地租及地方税共)
土地資本償却	六〇
建物維持償却	二〇
雑費	二〇

計

一三三三

(ろ) 収入之部

糶

七十五石

九〇〇 (地主及小作人折半とす)

計

九〇〇

差引利益金

六六七

即ち固定資本四千二百圓に對し一割五分八厘となる。

(2) 煙草栽培の收支採算 (一町步經營の場合)

(一) 支出之部

種目	人員	金額
苗床肥料	一人	一三五〇 ^円

農業經營の收支採算

農業經營の收支採算

種子代	1	5,000
苗床設置費	10	4,500
播種費	8	3,600
除草	13	5,400
虫害驅除費	1	2,500
消耗品	1	1,500
苗拔取運搬	10	4,500
移植	15	6,750
摘心	15	6,750
腋芽剪除	10	4,500

農業經營の收支採算

灌水	10	4,500
中耕除草	10	4,500
病虫驅除費	1	1,000
耕耨費	1	1,000
整理	13	5,850
生葉收穫	25	11,250
生葉運搬	馬車5	10,000
燃料費(石炭)	10噸	14,000
葉編費	15	6,750
包裝費	1	1,000

農業經營の收支採算

雜役費	三五 _人	一五、七五 _円
地代(借地)		五〇、〇〇
組合費		一五、〇〇
農具償却		一〇、〇〇
乾燥室償却費		一六、七〇
同上修繕費		一六、七〇
販賣手数料		三五、〇〇
税金		四〇、〇〇
肥料代		一二五、〇〇
合計	六二三、〇〇	

(二) 収入之部

乾葉	三百五十貫(原價二、五〇)	八七五、〇〇
差引利益金		二六二、〇〇

但し右は借地の場合なるも若し土地を購入して經營するものとせば左の固定資本を要す。

1. 土地代一町	六〇〇 _円
2. 乾燥室	二〇〇
3. 農具	七〇
計	八七〇

故に前記収入中より土地資本償却九圓を減じ更に地代五〇圓を加へたるもの三〇三圓が利益となり、この利益を固定資本八百七十圓に對比する時は利廻り三割四分八厘強となる。

農業經營の收支採算

(附録) 關東洲内に於ける邦人自作農の移住に就て

尙ほ曩に設定せられたる、大連農事會社の經營に係はる關東洲内に於ける邦人自作農移住事情を左に摘記して参考に供す。南米や北米も結構ではあるがそんなに母國から遠く距れた不便な處まで出掛けなくても、昨年来吾等に最も

近い對岸の關東州に、補助があつて確實有利なる新活路が開かれた。然るに内地ではまだ知らない人が多い様であるから、茲に其梗概を紹介すれば、

堅實なる農家の移住

關東州内に堅實なる邦人農家を移住土著せしむる目的を以て、資本金五百萬圓の大連農事會社が、曩に大滿鐵の傍系會社として設立せられ、既に約三千町歩の既墾畑地を買収し殆んど原價で然かも年賦償還法に依り分譲し、所謂小資本自作農を創設し、内地の生活難

及人口食糧問題に對し、幾分の緩和を計ると共に、合理的農業の經營を爲し地方農民の模範として、在來農法の改善を期し、人類の福祉を増進する爲に、昨年来愈々自作農移住者の募集證衡中である。

位置及收容豫定數

移住地は關東州内に於ける貔子窩、普蘭店民政支署及旅順民政支署管内で、概ね鐵道沿線の部落である。農家の收容戸數と

其年度割は土地の區劃整理、耕地整理、土地改良其他の事情で確實な事は言ひ難いが、昭和五年より五箇年間に約五百戸三千人の移住者を募集の豫定である。

地味及耕作物の種類

既墾畑地で地味は概して良好である。耕作物は果樹、棉花、煙草、桑、花卉、落花生、

陸稻(一部分水稻も可能)、大豆、小豆、粟、黍、高粱、玉蜀黍、甘藷其他蔬菜類等、有る農作物の栽培に適して居る。

農村設置の計畫

移住地一帯の中心で、住宅地として適當な箇所を選定し二、三十戸以上の集團農村を設置する計畫にて、一戸當り約六百坪の脱穀場に菜園を兼ねた屋敷地を分譲される。當初は其附近に休宿所を設け一時移住者の居住に充て、將來農村が形成されると之を改造して倉庫、學校、巡回診療所等

公共の用に供し、其他衛生、警備の點も萬遺憾なき様にされる筈である。斯くして隣里相和し協同一致して農事に、共同販賣、共同購入等相互扶助して勤儉力行し、意義あり活氣のある平和村を建設し、附近支那人村落にも此美風を傳へて渾然たる一大理想郷を創設

せんとするものである。

移住資格と分譲地積

移住者の資力は相當の資力を有し、身體強壯、思想堅實なる滿廿歳以上の男子で、其一家には二名(妻帯者を望む)以上の勞働に耐ふる者を有し、現地に居住し自ら農業に従事せんとする者に限る。移住農家一戸當り分譲地積は各種の事情によつて異なるも、概ね

既墾畑地を平均八町歩(五町乃至十町歩に區劃せり)見當に區分して一戸分となす、分譲価格は買收原價に附帯經費の實費を加算して算定し、場所に依つて差あるも、中等地で平均一反歩金百圓見當である。

土地代の年賦償還法は、例へば八町歩を八千圓で分譲を受けたとすれば、二十分の一の四百圓を最初に仕拂ひ、殘額七千六百圓は年利五分を附し五箇年据置き、六年目より二

十箇年間に元利合計均等年賦で償還する、即ち二年償還額は金七百七拾八圓參拾參錢である。

補助金及貸金

補助金は情況により差あるも大約日本内地よりの移住者には渡航費として、距離と家族の數により三百圓以内、建物及井戸等の設備費として最高九百圓以内を補助する。又建物井戸等の建築費、農具、家畜の購入資金及農業經營資金等の一部を移住者の希望により、會社側が其必要を認めたる場合は最高一千圓を限り、貸與を受くる方法もある。其償還法は土地代年賦償還法と同一で長期に互り償還する事が出来る。

農業の經費

移住當初に必要な資金を概算して見ると、先づ八町歩の中等地を分譲されたとして、之

を經營するには總額約三千四百圓を要する。(内譯、土地代初度拂込四百圓、渡航費三百圓、建物約一千圓、井戸約二百圓、家畜約百五十圓、農具約百五十圓、

經營資金約八百圓、生活費約四百圓)。以上の内から補助金借入金二千二百圓(渡航補助三百圓建築補助九百圓、借入金千圓)を引くと初度に約千二百圓の準備を要する譯である。

農業經營法の例

耕種組織の如何に依り差あるも八町歩の經營法の一例を示せば、二町歩に果樹(主として林檎)を栽培し、其内五箇年間五反歩宛間作をなす、此間作面積を合せて六町五反歩には普通作物を栽培す。普通作物の作付歩合は自家用食料、飼料、燃料等の用途に供する爲約二町歩(陸稻、黍、高粱、粟、玉蜀黍、豆類等の穀菽類)約五反歩(甘藷其他蔬菜類)

を宛て、販賣用を目的として約三町歩（落花生）、一町歩（棉花）を宛つ。此間役畜の飼養、養鶏、養豚等の副業を行ふ。追々事情に通ずるに至れば養蠶及農産製造等をも經營に加味し、三年目頃より米國種煙草の栽培を始むるを有利とす。普通作物は只自給自足に必要な程度に止め、努めて有利なる作物並副業を撰擇經營し農家經濟を助長すると共に、必要な物資並に生産物の共同販賣、購入の組合を組織し、農業經營を漸次合理化するものとす。

農業經營の收益

前項例示の如き經營法による時は、之に要する經費は最初の四、五年間は七、八百圓乃至千圓、六年目より三、四年間は千圓乃至二千圓である。

之に對する収入は經營者の勤怠、能力、其他により一樣ならざるべきも先づ最初四、五

年間は千二、三百圓見當、六年目より

林檎の收入あるを以て逐年収入を増加し、十年目には四千五百圓以上となり、十五年目には六千圓以上、二十年目には六千四百圓以上、二十五年目六千七百圓以上の見當となる此の内より前述の經營費及生計費（四、五百圓）を控除すれば、初年度は利益はないが、二年目からは逐年

餘裕を累加して遂に廿五年目には貯蓄壹萬六千餘圓となり且完全に八町歩の土地所有權を獲得して立派な地主となり得る譯である。

八、企業の参考事項

滿蒙に於ける主要なる企業經營は比較的資力大なるものは概ね邦人の手によつて行はれてゐ

るものが、多いが個人殊に小商人は支那人に及ばない観がある、これは支那人間には商業市場組織並に同業組合制度が發達してゐて、一種の統制を保ち勤勉且生活簡易にて忍耐強く些少の利益にも勞力ををしまない事によるのである。

從來邦人の數多企業會社の亂立を見たが、最近事業界の不振金融の梗塞は一般經濟界を沈滞せしめ、今や銳意緊縮整理時代を現出しあるも

今後滿蒙新國家の積極政策と共に漸次新正面を拓き眞面目なる經營に向ふ事であらふ、よつてこゝに勞銀の標準(物價の標準は前己に述べたるを以てこゝに略す)竝に金融機關の概況其の他を述べる事にする。

(1) 滿蒙に於ける平均勞銀 (日當)

大工	左官	瓦工	石工	土工	木挽	瓦葺	指物師
支日	支日	支日	支日	支日	支日	支日	支日
人	人	人	人	人	人	人	人
三、 八〇〇	三、 八〇〇	三、 八〇〇	三、 八〇〇	一、 六〇〇	二、 八〇〇	三、 八〇〇	一、 〇〇〇
—	—	—	—	—	—	—	—
四、 二〇〇	四、 二〇〇	四、 二〇〇	四、 二〇〇	二、 一五〇	四、 二〇〇	四、 二〇〇	四、 二五〇

企業の参項事項

鐵力師	運搬夫	毛織工	製糖工	煙草工	製麻工	墨職
支日	支日	支日	支日	支日	支日	支日
人	人	人	人	人	人	人
一、三〇〇	八〇〇	二、五〇〇	二、四〇〇	一、四〇〇	二、五〇〇	二、九〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二、四〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、五〇〇	二、六〇〇	一、三〇〇	二、四〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

企業の参項事項

硝子職	洋服師	靴工	煉瓦積	活版職	經師職	雜役夫
支日	支日	支日	支日	支日	支日	支日
人	人	人	人	人	人	人
二、六〇〇	二、八〇〇	一、五〇〇	二、八〇〇	一、五〇〇	二、八〇〇	一、三〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
一、四〇〇	三、四〇〇	二、三〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、八〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

企業の參項事項

普通苦力 支人	三〇	—	六〇
農 夫 (朝鮮人)	四〇	—	一、四〇〇
支 (朝鮮人)	三〇〇	—	八〇〇
荷車賃 一日	五〇	—	一、五〇
荷馬車 (二頭)	二、〇〇	—	四、〇〇〇
荷馬車 (四頭)	四、五〇	—	八、〇〇〇
客馬車 (二頭)	一、五〇	—	二、〇〇〇
客馬車 (一頭)	四、〇〇	—	五、〇〇〇

(2) 金融機關

現在滿蒙に於ける日本側の金融機關は朝鮮銀行を中心とし、替爲銀行としては横濱正金銀行が活動し、不動産金融には東洋拓殖會社あり、又地方商業銀行としては滿洲銀行及正隆銀行の

本支店其他若干の小銀行が各地に存在してゐるが、まだ大使命を持つべき眞の中央銀行がないために地方銀行は不便を感じてゐるやうである、又關東州及滿鐵沿線に於ける農業の金融機關として金融組合が設立されたが、これは産業組合の一種に過ぎないのである、その外中小商人間に組織されてゐるかの各都市に於ける輸入組合はその共同信用を利用して商品仕入、資金の融通をしてゐるのである。又金貸業及び質屋は日滿人庶民金融機關として相當重要であるが、近來財界の不況と共にその營業者の數が減少して貸金額もまた減つて居る有様である。そしてまた日本側の貯蓄機關としては銀行の外、郵便局が頗る活動してゐるのである。

又滿蒙に於ける支那側の金融機關として古くからあるものは票莊、錢莊、錢舖、當舖等である、その票莊とは主として爲替及貸付を業とするもので、錢莊は個人又は合資組織による兩替商であつて、貨幣の投機的賣買替爲及貸付を營み、また錢舖は小資本を以て専ら兩替に任じ、

企業の參項事項

企業の参項事項

當舖は質屋であつて主として労働者の金融機關である、この外又糧棧といふものがあるが、これは主として穀物の倉庫業兼問屋であつて時として農業の金融機關として活動することもある。以上の外尙滿蒙には次のやうな外國銀行もハルビンを中心とし大連、奉天、營口等に活躍してゐる。

1. 露亞銀行
2. 極東銀行
3. 滙豐銀行
4. 花旗銀行
5. 中法實業銀行
6. 上海香港銀行

(3) 電力及燃料

(い) 電力料金 (一馬力に付)

地名	契約全馬力一ヶ月	契約全馬力一ヶ月	最低料金每一馬力
奉天	二百時間迄の分 金五錢五厘	二百時間以上の分 金三錢五厘	金二圓
撫順	社外一キロワット 金三錢五厘	社内一キロワット 金二錢五厘	—
鐵嶺	百時間迄の分 金拾錢	百時間以上の分 金八錢	金三圓
長春	百時間迄の分 金五錢五厘	百時間以上の分 金三錢五厘	金二圓

尙料金を其の月の五日以内に納むる時は料金百圓に付一割、百圓以上三百圓迄二割、三百圓以上五百圓迄は三割、五百圓以上は四割の率を以て割引をして居るので平均一キロ一時間四

企業の参項事項

企業の參項事項

錢五厘位に當つて居る。

(ろ) 石炭價格 (撫順出炭一噸に付)

地名	粉炭	切込炭	塊炭
奉天	九圓—十圓	十圓—十一圓	十二圓—十三圓
撫順	九圓—十圓	十圓—十一圓	十二圓—十三圓
鐵嶺	十圓—十一圓	十一圓—十二圓	十三圓—十四圓
長春	十二圓—十三圓	十三圓—十四圓	十五圓—十六圓
吉林	十三圓—十四圓	十四圓—十五圓	十六圓—十七圓
鄭家屯	十二圓—十三圓	十三圓—十四圓	十五圓—十六圓

(4) 建築費及家賃

地名	普通建築費 (一坪當)		普通家賃 (一ヶ月疊一枚)	
	住宅 (煉瓦造)	工場 (木造)	住宅 (煉瓦造)	工場 (木造)
奉天	七、半圓—百五、半圓	五、半圓—七、八十圓	一圓五十錢—二圓	四、五十錢—一圓
四平街	百圓—百五十圓	六十圓—八十圓	一圓五十錢—二圓	五、半圓—一圓三錢
長春	百圓—百五、半圓	五、半圓—七、八十圓	一圓五十錢—二圓	五、半圓—一圓三錢
大連	百圓—百七、半圓	六十圓—八十圓	二圓—二圓五十錢	六、半圓—一圓半錢

(5) 滿洲に於ける「ハム」製造採算 (一磅當り)

(い) 原料肉代

金二十八錢六厘

(ろ) 藥品香料仕上加工諸費

金三錢五厘

(は) 目減り(約%20と見て)

金五錢七厘

企業の參項事項

企業の參項事項

六六

(に) 雜損(約%2として)	金三厘
(ほ) 經常費	金六錢
(へ) 金利	金貳錢四厘
計 (製造地原價)	金四拾六錢五厘
(と) 荷造諸費	金六厘
(ち) 大連輸出税	金壹錢貳厘
(り) 内地輸入税	金拾貳錢二厘
(ぬ) 大連より神戸迄の運賃	金四錢
合計 (神戸着原價)	金六拾四錢五厘即ち約六拾五錢となる

九、滿蒙移民に就て

滿蒙は滿蒙人の滿蒙であるから、ソウ日本人の思ふ通り自由勝手に、移民とか移住とかが出る譯のものでは、あるまいなどと云ふ人もあるが、其は勿論滿蒙の土地は滿蒙人の領域である事は、誰も異論のあるべき筈はない、殊に正義の日本は領土的野心や政治的野心をもつて居ないからである、然し茲に吾々は先に考へなければならぬ事が澤山ある、其は過去日清日露の兩戦役と云ひ、又今回の滿蒙事變と云ひ、日本はなぜ精神上及物質上此の如く屢々國運まで賭して、多大の犠牲を拂はなければならなかつたかと云ふ事に想到すれば自ら明瞭するであらう、けだし滿蒙が我國と特種の關係がないならば、何を苦んで、そんなに力癩を入れる必要があるであらう、世人既に周知の通り滿蒙は國防上、經濟上また悪思想の防遏上眞に帝國の生存に

滿蒙移民に就て

六七

關する所謂我生命線であるが故に此く多大の犠牲も拂ひまた國運を賭してまでもやつたのである、然し今只單に滿蒙に、新國家が出来たからと謂つて、其れ丈けで直ちに帝國の生存が保證されたと云ふ譯のものでは決してないのである。即ち茲に新國家をして完全に我國防上、經濟上、思想上必要なる施設並に永遠確固不拔なる帝國の特權なり事業經營なりを認めさせ、其の實現を甘受させなければならぬのである。之が日滿兩國の共榮共存の根本であり、又東洋平和の爲である、特に吾々の注意警戒を要すべき事は、新國家の滿蒙人と雖も矢張支那人である以上、たとい新國家が出来ても其の根本的、支那人の國民性までを焼き直す事は、仲々不可能の事であるから、常習的彼等の口約や文書上の條約丈けではいけない、其は從來の實例を鑑み全く信頼する事が出来ない、又之に信頼する事は頗る危険千萬である。故に此際どうしても實現實行主義で行かねばならぬ、即ち尙之を具體的に言へば滿蒙に於ける、彼の諸原料を我に取り

そして我邦人の集團的移民を彼の地に送る事の實行である。今や我國の現状及將來を思ふ時、人口並食糧問題の緩和を圖る唯一の手段として、又將來我國防上の見地からして、帝國の地位を益々鞏固安泰ならしむる爲めには、是非共大多數の邦人を移殖する事が第一要件であるから、此の意味に於て滿蒙に對する我移民斷行は絶對的でなくてはならぬ。故に其の可能性があるとかないか又出来るか出来ないとか、悲觀とか樂觀とか、滿蒙新國家が好むか好まないとか、そんなあやふやした、なまぬるい事では全然いかない。たとい是が非でも吾等は萬難を排して之を決行し其の實現成功に全幅の努力を傾注せなければならぬのである。然しながら現在はまだ新國家がやつと生れた計りで、まだ治安維持も確立されて居ないから、今直ちに大規模の移民實施は困難であらうが、然し今後新國家の進展並治安維持の確保に伴ひ逐次我政府乃至は官民合同或は國家的篤志に依る民間資本家の投資下に、既述の如く滿蒙に在る諸原料と低廉なる

勞力等の利用尙之に加ふるに彼等の及ばざる特有の智識技能を有し、穩健着實にして困苦欠乏に堪ふべき邦人の進出と相俟つて、茲に殖産工業及商業貿易に關する移民が集團的に或は組織的に行はれ漸次其の發展を見るに至るであらうが、然し獨り農業移民に在りては、過去の實例に鑑み、統制なき放縱なる個人的移民の成功は到底見込なし、どうしても大農法に依る集團的移民でなくてはならぬのである。又我勞働移民は餘程の大決心大覺悟を爲すにあらざれば、到底支那人勞働者に對抗し得るものではない、又利益壟斷的大地主の進出は、其の採算上勞銀安き支那人乃至鮮人を使用するを有利とするがゆゑに、邦人の用途比較的減少し從て極力大多數の集團移民を送らんとする趣旨に合致しないのである、故に今後は是非共完全なる自衛能力を有し（之が爲めには在郷軍人を骨幹とするを可とす）且つ醫事衛生、教育、輸送、販賣並購買等の諸機關を有する然かも統制あり、組織ある集團移民でなくてはならぬ。然して此の如き大

規模の移民は到底個人的の少資本に依て實行し得べきものではない、之には莫大なる資金と廣大なる土地を要するのであるから、其の何れの點から云ふてもどうしても國家百年の大計の下に、政府或は官民協力の手に依て統制的に組織的に實行さるべきものであると信する次第であるが、此頃灰かに聞く、所に依れば、何でも當該主務局に於て之が具體的方策を講究されつゝあるそうだから、遠からず實現の曙光を見る事であらう。

けだし移民と云ふものはソウ簡單に行くものではない、又世の中には移民ブローカーや、移民利権やなどがあるから若しそんなものに引掛ると、とんでもない悲境に陥る事がある、故に移民志望者は先づ信頼すべきその縣廳當局又は拓務省（東京日比谷）等に能く其の眞否を確かめる等十分研究する事が必要である、而して其の移住者たらんとするものは是非共左の如き決心覺悟を有する事が最も肝要である。

- 一、一攫千金の野望を全然放棄して只代々一家の生活安定を得るを以て満足すべき事
- 一、能く困苦欠乏に堪へ忍耐努力して最終の成果を收むるの決心最も必要なる事
- 一、經營努力の點に於て決して支那人に劣らざるの覺悟を有する事
- 一、行く／＼滿蒙の地に骨を埋むるの決心覺悟にて移民する事
- 一、年壯にして體格強壯なる事
- 一、思想穩健着實にして且つ勤勉なるべき事
- 一、餘り家庭の繫累なき様にして移住する事が必要である

一〇、滿蒙旅行に就て

(1) 服裝及携帶品

滿蒙旅行と云へば何だか、大變な準備でも要る様に考へて居る人が多いようであるが、其は其の行先や目的に依り、多少の準備を必要とする場合もあるが、然し唯視察かた／＼滿鐵沿線の所に行くのには、何にも内地旅行と大差はないのである、察するに多くの人々の心配するのは滿蒙は大變に寒いと云ふから、冬季の旅行には第一に防寒被服の準備が入るであらう、又馬匪賊が横行すると云ふから、「ピストル」の一挺でも携帶の必要がありはせぬか等の、杞憂に過ぎないのであらうが、然し「ピストル」などは普通の旅行には絶対に必要はない、否寧ろそんな物を携帶して行く事は却て危険であるから寧ろヨシタほうがよい。又嚴冬の眞最中でも滿

洲の汽車の中や、旅館の室は逆も熱いので、却て内地旅行の時よりも、薄着をしないと汗が出て困る位である、只室外に出る時即ち外出の時丈け防寒シャツなりチヨツキなりを着し、その時こそ必ず防寒外套、手套、襟巻、耳覆等の、防寒被服を使用する必要があるのである、そして此等防寒具の内防寒シャツやツボンなどは内地で買求める方が便利であるが、其の他の防寒具殊に毛皮製の被服類は、總べて渡滿してから能く其の土地の事情に慣れて明るい人に依頼して適當な物を買求めて貰へば、内地よりも比較的良質安價の物が得られる(例へば羊毛皮の如きも奉天附近では外套裏用一枚金十圓内外出せばあるが内地ではどうしても二十圓位かゝる)だから急いで内地で準備する必要はないのである。

又携帶品の如きも同様で、滿洲の鐵道沿線を旅行する時には、別に何の不自由もないのであるから、内地旅行と同様でよろしいが、少し長期に亘る時には先づ、膝掛又は毛布の類や、

シャツやツボン下の着替、豫備のホワイトシャツに附屬ボタン類、カラ及ネクタイ、ハンカチーフ、手袋、靴下、タオル、石鹼、齒磨用具、西洋剃刀、小鏡、革砥、タリーム、塵紙、マスク、名刺、手帖、萬年筆、インキ、通信用品、郵便切手、ハガキ、小刀、鋏、懐炉、同灰、仁丹、健胃劑、下熱劑、羅紗刷毛、腹巻、豫備サルマタ、空氣枕、時計、磁石、地圖、旅行案内、要すれば眼鏡及寫眞機(此等は滿州にて買求めるを安價とす)

然し少しでも鐵道沿線を離れて、滿蒙の奥地に旅行する場合は、滿漢人の居る地方で其の土民の食べる物(粗末なる田舎支那料理)で我慢する積りなら、別に何にも携行する必要はないが若し其が辛抱出来ぬと思ふなら、特に最小限左の如き品物を準備携行するを便とする。

白米又は麥粉、味の素、醬油エキス、食鹽、砂糖、福神漬、肉及魚のカンヅメ類、梅干、鹽鮭、海苔、鰹節、佃煮、茶、煙草、ウキスキー又はブラン、キヤラメル又はチヨコレート、

マッチ、蠟燭、携帶電燈、ノミ取粉、仁丹、健胃劑、下熱劑、寢具用毛布等、『追て尙ほ旅行先地方の然るべき人々に對しては、知人及友人等の紹介狀を携行する事が、たとい面會等の爲多少の時間を費しても至極便利を得る事が多いのである』。

(2) 經路の選定

日本内地から滿蒙に行くには、其の目的地により左の二方法の内何れかに依るのである、普通奉天附近及其より以北の地方に行くには左の(イ)に依るを便とし、又大連及其の附近に行く時は(ロ)に依るを便とす、

(イ) 朝鮮經由で奉天に行くには、下關から鐵道省の經營に屬する、關釜連絡船(約四千噸級の旅客汽船、景福丸、昌慶丸、德壽丸の三姉妹船)に依るを便とす、

此の關釜連絡船は朝と夕と一日に二回下關及釜山棧橋の兩地から各定期に出帆し、三等貨

金三圓五拾五錢僅か八時間ばかりで到着する事が出来る。

(ロ) 直路大連に行くには大阪商船會社の經營に係はる大連航路の汽船(約六千噸級の旅客汽船、うる丸、はるびん丸、香港丸、ばいかる丸の四雙の内何れか)に依るを便とす、

此の汽船は毎週二回大阪、神戸及門司から定期に出帆し三等賃金神戸から大連まで拾九圓門司から拾七圓僅か五拾時間ばかりで到達する事が出来る。又近く右四汽船の外、新に烏蘇利丸と云ふのが大連航路に増加され其の曉には毎週三回宛定期出帆する事になる、

出帆時刻は大阪商船會社の本、支店又は東京大阪及門司等の鮮滿案内所に問合はされたし

(3) 乗車乗船券に就て

朝鮮及滿蒙の各驛へは關釜連絡船を介して鐵道省線の各驛から連絡の通し切符を買ふことが出来る。又汽船を介し大連、青島、上海及浦鹽を経由する連絡切符も鐵道省線と滿鐵線、支那

鐵道線並蘇國鐵道線の主要驛間に發賣されて居る。即ち日本内地から鮮滿支那へは一枚の切符で行けるのである。其切符は停車場並ジャパンツーリストビュローの各案内所で發賣してゐるが、又東京、大阪、下關の鮮滿案内所のツーリストビュローでも此方面の切符を専門に取扱て居る。

鮮滿支那方面の旅客は、行き切りの旅でない限り、成るべく連絡往復又は周遊の切符を購求するが徳用である。往復、周遊の切符は船車賃の割引があり又途中枝線旅行に對して特典がある。以下單獨の場合と團體の場合とに分ち割引切符の各種に付き大要を述べることにする。

(い) 單獨旅行の場合

朝鮮滿州往復券 (朝鮮經由)……鐵道省、朝鮮鐵道局、朝鮮鐵道會社及南滿洲鐵道の各驛間に發賣し、賃金は汽車汽船共二割引、通用期間二ヶ月である。

滿洲往復券 (大阪商船大連航路經由)……鐵道省線主要驛と南滿洲鐵道線左記主要驛間に發賣し、賃金は汽車二割引、大連航路一割引、通用期間二ヶ月である。

大連、金州、普蘭店、瓦房店、大石橋、海城、鞍山、遼陽、奉天、鐵嶺、開原、四平街、公主嶺、長春、旅順、營口、撫順の各驛行。

日鮮滿周遊券 ……片道關釜連絡船、片道大連航路を經由し、本邦滿洲朝鮮を周遊するもので其徑路は

(甲) 初發驛—神戸又は門司—大連—奉天—安東—京城—釜山—下關—發驛歸著

(乙) 甲の正反對徑路

の二つがあり、賃金は各鐵道並關釜連絡船二割引、大阪商船一割引、通用期間二ヶ月である本券の發賣驛及賃金次の如し。

發賣驛	一般旅客			學及學生	校生	教職	職員	徒
	一等	二等	三等					
東京又 は新橋	五三・七〇	三六・〇〇	二六・二〇	四六・〇〇	三六・〇〇	二六・二〇	九一・七〇	九一・七〇
濱名古屋	五三・四〇	三六・〇〇	二六・二〇	四六・〇〇	三六・〇〇	二六・二〇	九一・七〇	九一・七〇
京都	四九・八〇	三三・〇〇	二二・五〇	四〇・〇〇	三〇・〇〇	二二・五〇	八三・九〇	八三・九〇
大阪	四八・一〇	三二・〇〇	二二・四〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・四〇	八〇・六〇	八〇・六〇
神戸	四七・六〇	三一・五〇	二二・三〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・三〇	七九・六〇	七九・六〇
姫路	四七・三〇	三一・二〇	二二・二〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・二〇	七九・六〇	七九・六〇
岡	四六・六〇	三一・〇〇	二二・〇〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・〇〇	七九・六〇	七九・六〇
山	四六・三〇	三一・〇〇	二二・〇〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・〇〇	七九・六〇	七九・六〇
廣	四六・〇〇	三一・〇〇	二二・〇〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・〇〇	七九・六〇	七九・六〇
島	四五・八〇	三一・〇〇	二二・〇〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・〇〇	七九・六〇	七九・六〇
下關	四五・〇〇	三一・〇〇	二二・〇〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・〇〇	七九・六〇	七九・六〇
又博	四四・〇〇	三一・〇〇	二二・〇〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・〇〇	七九・六〇	七九・六〇
多	四三・五〇	三一・〇〇	二二・〇〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・〇〇	七九・六〇	七九・六〇
長	四三・〇〇	三一・〇〇	二二・〇〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・〇〇	七九・六〇	七九・六〇
崎	四二・五〇	三一・〇〇	二二・〇〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・〇〇	七九・六〇	七九・六〇
熊	四二・〇〇	三一・〇〇	二二・〇〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・〇〇	七九・六〇	七九・六〇
本	四一・五〇	三一・〇〇	二二・〇〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・〇〇	七九・六〇	七九・六〇
鹿	四一・〇〇	三一・〇〇	二二・〇〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・〇〇	七九・六〇	七九・六〇
兒	四〇・五〇	三一・〇〇	二二・〇〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・〇〇	七九・六〇	七九・六〇
島	四〇・〇〇	三一・〇〇	二二・〇〇	三九・〇〇	二九・〇〇	二二・〇〇	七九・六〇	七九・六〇

本券は各鐵道共途中下車回数無制限、東海道、中央、山陽、山陰、關西線中孰れの線路を徑

路とするも任意等の便宜があり、又左の區間に對し賃金二割引證票が附隨して居る。

○京城又は永登浦と仁川間 ○奉天長春間 ○撫順線の各往復 ○大連青島間汽船片道

日中往復券……本券は本邦と支那本土主要都市間に限り發賣するもので、汽車賃二割引、通
用期間三ヶ月とし、徑路には左の二途がある。

(イ) 朝鮮經由往復……朝鮮を經由し奉天から支那北寧線に入り目的地に達し、又同一徑路
で發驛に歸著するものであるが、枝線に亘る京城仁川、奉天大連、奉天長春及天津北平間
に乗る場合は、其區間往復には矢張り二割引の賃金で切符を發驛で買ふことが出来る。

(ロ) 青島經由往復……日本郵船、大阪商船及原田汽船各會社の青島航路で神戸又は門司か
ら青島に渡り、支那膠濟線で目的地に達し、同一徑路で發驛に歸著するものである。

日中周遊券……本券は本邦主要都市を發し朝鮮、滿洲、支那を周遊するもので、其徑路は左

の六途ある。

第一徑路 發驛から朝鮮を經由し奉天から支那鐵道にて北平、漢口に至り、日清汽船會社の汽船で揚子江を上海まで下り、上海から長崎、門司或は神戸まで日本郵船會社上海航路に依り發驛に歸著

第二徑路 第一徑路の正反對路

第三徑路 發驛から朝鮮經由奉天から支那鐵道にて北平に達し、天津に戻り南京に南下し更に上海に至り、日本郵船、上海航路に依り長崎門司或は神戸に上陸の上發驛に歸著

第四徑路 第三徑路の正反對路。

以上四ヶ徑路の通用期限四ヶ月

第十一徑路 第一、第三徑路の順路にて北平に達し、天津に戻り濟南まで南下し更に膠濟線

で青島に出て、日本郵船、大阪商船或は原田汽船の青島航路に依り門司又は神戸に上陸の上發驛に歸著。

第十二徑路 第十一徑路の正反對路

右二ヶ徑路の通用期限三ヶ月

本券は神戸門司、神戸長崎、又門司長崎間、南京上海間は汽車汽船何れでも選ぶことが出来る。又日鮮滿支各鐵道の枝線乗車の場合は往復汽車賃二割引を受くる特典がある。

日滿往復券……本券は鐵道省線主要驛から東支鐵道線の雙城堡、哈爾濱、安達、齊々哈爾、海拉爾及滿洲里の相互間に發賣する往復切符で、東支線を除く各汽車賃二割引、浦鹽及大連航路賃一割引、ウスリー線三等に限り二割引通用期間六十日間であるが、其徑路には左の三途がある。

(イ) 朝鮮經由往復……發驛—下關—釜山—安東—奉天—長春—著驛の往復

(ロ) 大連經由往復……發驛—神戸又は門司—大連—長春—著驛の往復

(ハ) 浦鹽經由往復……發驛—敦賀—浦鹽—綏分河—著驛の往復

(ニ) は大阪商船大連航路、(ホ) は北日本汽船浦鹽航路の汽船に依るもので又(ハ)の浦鹽綏

分河間は蘇國ウスリ線に依るを以て此徑路だけは正式の外國旅行券携行の必要がある。

日滿周遊券……本券は日鮮滿各地蘇國沿海洲を周遊する切符で通用期間九十日間、徑路には

左記四徑路がある。

第一徑路 發驛—下關—釜山—安東—奉天—長春—哈爾濱—綏分河—浦鹽—敦賀—發驛歸著

第二徑路 第一徑路の正反對路

第三徑路 發驛—門司—大連—長春—哈爾濱—綏分河—浦鹽—敦賀—發驛歸著

第四徑路 第三徑路の正反對路

本券の割引率は前項往復券と同一である。又蘇國鐵道を通過する關係上、外國旅行券の携行を要する點も浦鹽經由往復券と同一である。

學生及教職員 は左記の通前述各割引切符より一層高率の割引を孰れの船車にも適用される故に切符購求の際は所定の在學證明書と割引證を出札口に提出すると宜い。但し其割引は學生は三等に限り、教職員は三等又は二等に限つて居る、

學生及教職員——割引鐵道省線二割引 朝鮮鐵道四割引 滿鐵線五割引 各汽船二割引

(ろ) 團體旅行の場合

團體を日鮮滿、日中、日滿の三種別とする。右三種の團體の取扱方は大體同一であるが細目に於ては多少の相違がある。之等を詳細に記述するは紙面が許さぬから茲には其の概要を摘記す

る。

(イ) 十人以上から團體の取扱ひをする、二十一人以上になると人数に應じて日鮮滿の鐵道は團體監督者を左の割合で無賃待遇する。

二十一人以上五十人迄は内一人、五十人以上は五十毎に内一人

(ロ) 團體の徑路及取扱地域は前項の單獨旅行の場合と同一で鮮滿支那の往復或は回遊に限る(片道旅行の團體は各鐵道各別の割引規程に依り取扱ふ。)

但し本邦から發し本邦に歸著するを條件とし、必しも同一驛に發著を要せず。

(ハ) 旅行先で枝線に新たに旅行する場合は原券と同一の割引が受けられる。

(ニ) 學生及教職員團體は一般團體より高率なる所定割引が受けられる。

(ホ) 支那鐵道の賃金は銀弗。東支及蘇國鐵道の賃金は金弗建であるから、毎月發表される

公定率で圓貨に換算して賃金を定める。

(ヘ) 浦鹽經由の團體は外國旅行免狀を受けてからでないとい切符は求められない。

(ト) 各鐵道及汽船の賃金割引率左の通り。

運輸機關 (鐵道省線 含連路船)	學生團體		一般團體	
	十人以上	二十人以上	十人以上	二十人以上
朝鮮鐵道	五割引	五割引以上	三割引	五割引
滿鐵線	五割引	六割引以上	三割引	五割引
東支鐵道	五人以上五割引		一、二等十五人以上 三等三十人以上 四割引	

ウスリイ鐵道	十人以上四割引		二割引	三割引以上
	片道二割五分引	片道三割引		
支那國有鐵道	往復五割引	往復五割引	一、二等ニ限リ 二割五分引	一、二等ニ限リ 三割引
	大連、青島、上海、 浦鹽各航路	二割引	三十人以上二割五分引 五十人以上三割引	一、二等ニ限リ 一割引
大連上海間航路	二割引	二割五分引 三十人以上	一割引	一割五分引 五十人以上
揚子江航路	十八人以上 特等一割引	十八人以上 官船一等二割引		

○日中及日滿連絡學生團體に限り省線十人以上割引は五割引とし、又學生も二等乗車を認む

(は) 各地汽車汽船賃金

日鮮滿支那に於ける各鐵道及汽船の普通旅客運賃及急行其他料金は次の通りである。前項單獨及團體の割引を計算する場合は本賃金を基礎とすべきであるが、日滿及日中周遊券の如き弗單位、賃金を包含する切符の價は最寄鮮滿案内所に就き其都度確かめられたし。

鐵道線旅客普通運賃

(右行—三等運賃 左行—二等運賃)

區別	東	京	名古屋	大	阪	廣	島	博	多	長	崎	神	戸	門	司
釜山	一三、三三三	二六、六六六	二一〇、九四二	一九、五五六	一三、〇五六	九、四八九	一四、七〇〇	一八、六三一	七、二六五						
門司	一九、九八八	一六、六六六	一七、四四七	一二、六一二	六、〇〇六	二、四四八	三、四四五	一五、八六二							
神戶	一六、三〇〇	一六、三〇〇	五、九八八	一、〇八四	七、七〇五	一、二〇〇	一、五七七								
長崎	二一、〇五六	二一、〇五六	一八、二六八	一五、七八八	一五、〇五六	五、二六一									

滿蒙旅行に就て

九二

滿鐵線旅客普通運賃

(右行—三等運賃 左行—二等運賃)

區間	大連	湯崗子	奉天	四平街	長春	旅順	營口	撫順	安東
右行	一八、九〇五	九、五七五	七、四三五	一三、七〇五	一六、九〇五	一〇、五〇五	一〇、五〇五	一〇、五〇五	一六、九〇五
左行	一八、九〇五	九、五七五	七、四三五	一三、七〇五	一六、九〇五	一〇、五〇五	一〇、五〇五	一〇、五〇五	一六、九〇五
同上急行料金									
湯崗子	八、二〇五								
奉天	一六、一〇五	二、九〇〇							
四平街	一六、四〇〇	八、二五五	五、三〇五						
長春	一〇、九〇五	一、六四五	八、四五五	三、二五〇					
旅順	一、七五〇	九、四〇〇	一、六〇〇	一、七〇五					
營口	七、三〇五	二、一〇五	五、二〇五	一、〇三五					
撫順	二、六七五	四、〇二五	一、六〇〇	六、三〇五					
安東	一、八〇五	九、七五〇	七、四三五	一、三〇五					

等級	料金
一等	五〇〇
二等	二五〇
三等	一五〇

同上寢臺料金

一等 上段 七、〇〇〇
 下段 七、〇〇〇
 二等 上段 四、五〇〇
 下段 四、五〇〇
 三等 上段 一、八〇〇
 中段 一、八〇〇
 下段 一、八〇〇

支那國有線旅客普通運賃

(右行—二等運賃 左行—一等運賃)

奉天—新民	天津—塘沽	北平—四沽	上海—南京	同—北平	同—天津(東)	同—山海關
二、七八〇	六、四三〇	六、四三〇	一〇、九五〇	三、七五〇	三、二五〇	一、八二〇
天津—北平	同—塘沽	同—石家莊	同—浦口	同—徐州	同—濟南	同—鄭州
一、八二〇	二、〇三〇	一、八二〇	五、一七五	三、四〇〇	一、八二〇	三、二五〇
北平—四沽	同—石家莊	同—鄭州	同—漢口	同—漢口	同—鄭州	同—鄭州
八、三五〇	一、四二五	三、二五〇	六、一六五	四、一六五	三、二五〇	三、二五〇

等級	料金
一等	五〇〇
二等	二五〇
三等	一五〇

滿蒙旅行に就て

九三

滿蒙旅行に就て

同上寢臺料 (寢臺料トハ急行寢臺座席料ノ意ナリ) 金弗單位

浦鹽	哈爾賓	一等	三、一〇	二等	二、三〇	三等	一、〇五
長春	同	同	三、一〇	同	二、〇五	同	一、五〇
滿洲里	同	同	三、一〇	同	二、三〇	同	一、〇五

各航路汽船旅客普通運賃

區	間	一 等	二 等	三 等	等
下關	釜山 (鐵道省)	一、〇二	七、二七	三、三三	三、三五
敦賀	大連 (北日本汽船)	五、五〇	五、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
門司	大連 (大阪商船)	六、五五	五、七二	一、〇〇	一、〇〇
神戶	大連 (日本郵船)	五、五〇	五、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
同	青島 (大阪商船)	六、五五	五、七二	一、〇〇	一、〇〇
同	青島 (日本郵船)	五、五〇	五、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
門司	青島 (原田汽船)	五、五〇	五、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
神戶	上海 (日本郵船)	八、〇〇	七、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
門司	上海 (日本郵船)	六、〇〇	五、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
長崎	同	五、〇〇	四、〇〇	一、〇〇	一、〇〇

單位、金圓
大連汽船上海青
天津發運貨ハ
島發運貨ハ
弗別個ノ貨金
ナリ

區	間	特 等	官 船	一 等	二 等	三 等	等
大連	同 (大連汽船)	六、三〇	二、四二	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
同	青島 (大連汽船)	三、三〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
同	天津 (大連汽船)	二、七〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
同	漢口 (日清汽船)	五、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
同	漢口 (日清汽船)	六、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
同	上海 (日清汽船)	六、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇

單位、銀弗

○下關釜山間航路運賃ニハ船中ノ食事料ヲ含マズ

(4) 税關、通貨其他に就て

(い) 税關

鮮滿支那旅行者は、左記各地を通過の際託送及手廻り手荷物に對して關稅の検査を受けねばならない。然し關稅手續は心配する程の煩瑣のものでなく、普通旅行用具や適量の土産物等なければ何等顧慮を要せず簡単に済むのであるから、申告を偽り又は隠匿するなどの言動は慎まねば却て頓んだ面倒を惹起する。

滿蒙旅行に就て

滿洲又は支那に旅行の際（朝鮮を除く）旅行用具の中特に注意すべきは寫眞機其他課税品にして此等を内地より携行する場合は、出發港の税關にて豫め許可證明書を貰ひ受け置かぬと歸還の際課税される、又商品見本類に對しても同様で假令揃つて居らぬ物品でも個々に一の商品であり其數量が相當ある場合は課税されるから、斯る場合は輸入港の税關に一時關税を供託の上其證明書に依り歸還に際し戻税を受くる方法を講し置くことを御勧めする。

尙内地歸還の際、煙草、酒類、砂糖、絹織物、毛皮、骨董品、麻雀等は特に通關面倒の物品であるから注意を要する。

釜山及下關「關釜連絡船による場合」朝鮮に行く時も内地に歸著する時も、船内で日本税關の簡易なる検査がある。

安東 朝鮮から滿洲に行く時も滿洲から朝鮮へ入る時も、託送手荷物は安東驛内税關検査所

で列車内持ち込の手廻り品は列車内で、何れも朝鮮及支那税關の検査を受けねばならぬが、此の際立會はぬと荷物丈けその儘留め置かれるし、尙又荷物のみ先送される場合は鎖錠した物は鍵を同時に預けられぬと、そのまゝ立會が終るまで留置かれるから特に注意せねばならぬ。關東州 鐵道で大連に入る場合普蘭店以南の汽車中で、又汽船で入る場合は汽船内で酒、煙草等に對して検査がある。

大連 陸路北行の際大連驛前で支那税關の検査がある。

上海、青島、天津 上陸地點で支那税關の検査がある。尙支那内地都市に於て下車の際停車場又は停車場前で簡易な検査がある。

浦鹽斯德、ボグラニーチナヤ ソヴェット入國の際は無關税にて携帯し得る物件數量等いろいろ制限があるが、通過旅行の場合には、あまり制限はない、而し書籍、印刷物並原稿等は

可成り嚴重な検査がある。尙寫眞機一個丈は携行差支へたい。ソヴイエツト内に於ては官憲の許可なければ絶対に撮影は出来ぬ事になつて居る。

下關、門司、長崎、神戸、敦賀 等何れも上陸地點で税關の検査がある。(大連門司神戸間大阪商船汽船内には日本税關吏が乗組んで居て船内で税關検査を受けることが出来又上海、長崎神戸間の日支連絡船にも同様日本税關吏が乗込んで居て船内で検査を受ける事が出来る)

(ろ) 通 貨

本邦、朝鮮、滿洲等日本の經營する鐵道沿線には日本貨幣及日本銀行、朝鮮銀行の兌換券が流通して居るから旅行上些の不便はないが、吉林、哈爾濱其他支那、蘇國の鐵道沿線に至ると言語の不通や土地の不案内と共に、通貨の關係が煩瑣になつて来る。支那は世界中で一番通貨の複雑の國と云はれて居る通り奉天、吉林、哈爾濱、北京其他南部地方等で左記の通り全然流

通貨を異にして居る。

朝鮮 各地 日本銀行發行貨幣朝鮮銀行發行貨幣(朝鮮銀行發行紙幣は歸還の際船内又は乗下船港の銀行で兩替を要する)

滿鐵 沿線 朝鮮と同様。其外に横濱正金銀行發行の圓銀貨及紙幣

奉天及洮南地方 新市街を離れ支那街の買物等には奉天省當局の發行する貨幣、俗に奉天票と云ふ。

吉林 方面 吉林省當局の發行する貨幣、俗に吉林官帖と云ふ。

東支鐵道沿線 蘇國貨幣(金ルーブル)と支那貨幣の哈爾濱大洋とが流通する。鐵道以外の勘定には主として哈大洋を使用す。日本貨幣も日本人間には流通する。

其他支那各地 支那貨幣。銀を本位とする所謂大洋元にして、北洋銀、湖北銀、廣東銀、墨

西其弗、香港弗、日本圓銀等の種類がある。右の中最も汎く流通するは墨西其弗で、香港弗之に亞ぎ南支一帶、北平天津方面に通用する。此外小洋銀、銅元、票子(紙幣)等の補助貨。以上の如く支那内部の流通貨は頗る複雑にして一般旅行者には到底之等を、土地々々で使分けすることは出来ない。よし多少支那貨に智識ある人でも、日々に變動する銀相場に左右せられ貨幣の價に高低常なき以て、計算の煩瑣を避け携帯には日本貨を以てし、行く先々で當座の入票だけ兩替するか正金銀行信用狀を携行するかの方が便利である。

(は) 標準時

滿洲及支那の標準時は内地又は朝鮮よりも一時間遅れであるから、内地又は朝鮮から滿洲に入る場合は、安東又は大連(汽船の場合門司發後は毎朝三十分宛遅らせる)で一時間時計を遅らせ、反對の場合は進める必要がある。内地より上海又は青島から支那内地に入る場合、反對

に内地へ歸著の場合も同様である。滿洲里以東浦鹽迄及長春哈爾濱間は哈爾濱時刻に依るの南滿洲時間に二十六分を加へればよろしい。



内地及朝鮮
鮮正午十二時



南滿洲及支那午前十一時



哈爾濱時刻
午前十一時二十分

(に) 旅券

朝鮮各地及滿鐵、東支、吉長 四洮鐵道沿線は勿論日中周遊徑路による支那鐵道沿線並開港地點等の視察旅行には旅券の必要はないが、右以外の支那奧地旅行の場合には、帝國領事館を経て支那官憲より身邊保護の爲め旅行者に與へらるゝ一種の旅行免狀とも云ふべき護照を受け

滿蒙旅行に就て

て行かれる方がよい、護照を受けんとするには二弗の收入印紙を添へて領事館に下付を出願すれば二三日或は一週間内に受ける事が出来る。

尙日滿周遊徑路、即ち内地より浦鹽—ボグラニーチナヤ—哈爾賓—南滿州を経て—内地へ或は右の反對徑路による旅行者は府縣廳より正式に外國旅行免狀の交付を受け（更らにソツイエツト領事館の裏書を受くるを要す）之を携帯せねばならぬ。

(ほ) 撮影其他

鮮滿に限らず旅客が無意識に撮影又は描寫を爲し、夫れが偶々要塞地帯法に觸れ頓んだ面倒を惹起せし例は無いことでない。左に撮影又は描寫禁止の箇所を掲げ一般の参考に供する。

下關、門司を含む下關要塞地帯内の海陸

長崎を中心とする長崎要塞地帯内の海陸

釜山馬山を含む鎮海要港地帯内の海陸

元山附近永興灣要塞地帯内の海陸

大連旅順を含む關東洲防禦營造物地帯内の海陸

右の外、浦鹽斯德より綏分河に至る蘇國領土内は特に蘇國官憲の許可なき限り絶対に撮影、寫描を爲してはならない。

(へ) 土産物

處替れば品替る各地各地で珍らしいもの欲しいものが相當あるので、手當り次第買ひ込まれるのが普通であるが、税關では旅行に必要な手廻り品以外は課税するを原則として居るから、安いと思つたり珍らしいと思つて買つたが結局課税されて高い土産になつたと云ふやうな例もあるから餘程考慮を要する。

煙草は喫煙者に限り自用として、葉巻ならば五十本、紙巻ならば百本、刻ならば三十本の何れか一種若しくは葉巻二十五本紙巻五十本といふ程度に、認定によつて免除されてゐるが必ず検査の證印を受けねばならぬ。

土産物購入上の注意

- イ、土産物類の購入選擇に就ては其土地の案内をして呉れる人によく聞き合すこと
- ロ、課税されても猶安いと思はるゝもの又は非常に珍しいと云ふやうなものでなければ買はれぬこと
- ハ、滿洲、支那方面は關稅の關係上時計、寫眞機等は安き筈なれど内地の相場と比較して買はざれば買被ることあり注意さるゝこと。
- ニ、内地製の輸出品を再び買ひ歸る愚を演ずる人あり注意すべきこと。

ホ、左記の品は滿洲主要都市安東、奉天、長春、大連等何れの地でも求められるが支那方面に行かれる方は北平、天津、上海等で求むる方が廉價である。()内の品は特に哈爾濱で求められるゝ方品種も多く價格も幾分廉價である。

絹紬、絹緞、緞子、支那刺繡、テーブル掛、其他の刺繡品、毛皮品、骨董品、支那製雜貨、砂糖、棗蓮の實等の砂糖漬、甘栗、支那素麵、寫眞機、懷中時計、煙草、酒類、翡翠(ダイヤ、アレキサンダー、ルビー、サファイア、等の寶石類)

鮮滿支各地に於ける地方的土産品

朝鮮

釜山——海苔。

大邱——林檎、杞柳製品、柿、莞草製品、陶磁器。

滿蒙旅行に就て

滿蒙旅行に就て

大田——柿。

仁川——ハム、朝鮮餡。

京城——人蔘を原料とする各種製劑、菓子、松の實入菓子、漢陽高麗、螺鈿漆器、莞草製編物、石器、毛皮（特に虎皮、豹皮の類）朝鮮雜貨。

開城——人蔘、高麗燒。

平壤——栗、菓子、手工品、

滿洲

安東——鴨綠江材細工品、絹綢、岫巖石細工、

奉天——毛皮。

撫順——石炭細工、琥珀細工。

大連——絹紬、豆素麵、支那菓子、甘栗、窯業會社製硝子器、陶雅堂仿古陶磁器。

旅順——旅順燒、鴉、其他戰役記念細工器。

三十里堡——梨、林檎。

熊岳城——梨、林檎。

營口——支那織物、關東人蔘。

鄭家屯——蒙古刀、佛像。

哈爾濱——露西亞菓子、露西亞卷煙草、露西亞更紗、同麻織物、同麻卓掛、同毛布、腸詰及燻製の食料品類、歐洲文房具、繪葉書。

支那

天津——菓子、手工品、カーペット。

滿蒙旅行に就て

北 平——(一〇七頁ニ、に掲げたる各種物品)

青 島——支那絹紬、博山硝子器。

上 海——(一〇七頁ニ、掲げたる各種物品)紫檀細工、象牙細工、陶器及漆器、支那

緬西洋雜貨、果實及同製品。

蘇 州——寒山寺石刷。

抗 州——絹織物、茶、扇子。

南 京——繻子、緞子、書畫、骨董。

(5) 主要都市の概況並宿泊料及車馬賃

(い) 釜 山 (京釜本線起點) 朝鮮の南端に位し、煙波三十哩を隔て、壹岐及對馬と相

對して朝鮮海峽の西水道を扼し、古來日鮮修交唯一の關門にて、關釜連絡船及鮮滿鐵道と相

俟つて、歐亞大陸に通ずる大支關たる樞要の地位を占め 逐年發達の狀勢にあり。

人口十一萬六千餘人内地人四萬二千百餘人、昭和二年度の輸移出入總額は二億四千三百九十九萬餘圓に達して居る。釜山に上陸した旅行者の第一印象は市街が全く内地化して朝鮮と云ふ感じのしない事で、此地が如何に古くから内地と密接な關係に置かれたかと云ふことが直覺される。

遊覽順序

停車場↓(電車) 大廳町↓(徒歩) 龍頭山↓(徒歩) 日韓市場↓(徒歩) 長手通↓(自動車)

松島↓(自動車) 停車場↓(電車) 東萊温泉↓(自動車) 停車場

朝連絡船で上陸して夜行列車で南へ向ふ行程の遊覽順序である。松島及東萊温泉へは乗合自動車(三十錢)が通つて居る、電車は市内五錢均一、東萊温泉へ二十五錢。

朝連絡船で上陸し直ぐ南行列車に乗る人は船車接續の待合時間を利用し、大廳町、龍頭山、長手通、

滿蒙旅行に就て

市場等市内を自動車で見るとよい(自動車賃三圓位)。

【名勝地】▼龍頭山、市の中心で港灣一帯の形勢を俯瞰することが出来る。丘上の金比羅宮は二百四十餘年前に對馬の國守の宗氏の建立にかゝり、後住吉、天満の二神を合祀して、在留邦人の加護を祈つたもので、朝鮮に奉祀せる神社の最初のもつと云ふ點に意義がある。▲龍尾山、龍頭山の南方市街を隔て、隆起せる小丘は、龍頭山に對して龍尾山と云ひ、武内宿禰、加藤清正を祀つた龍尾神社がある。位置海濱に通達して港灣展望に適してゐる。▼松島、釜山市街の南方約十町岩南半島の一部に灣入せる海岸を俗に松島と呼んでゐる。灣内波靜かで白砂相連り海水淺く夏季海水浴場として至極格好の地である。灣口に一小半島がある。老松數萬株鬱蒼として嘈々の韻絶ゆることなく松島の稱も因つて起れりと云ふ。夏季は毎日一時間毎に市内南濱より府の發動機船を運航せしめ一般海水浴客の便宜を圖り、陸路自動車の便もある。▲東萊溫泉、朝鮮第一の溫泉場で金井山の麓に在り、清澄な弱鹽類泉で、東萊川に臨み溫泉町を形成して居る。旅館は蓬萊館、東萊ホテル。釜山

から八哩、電車自動車の便がある、旅客の散策地としては東二里を隔てた海雲臺溫泉及梵魚寺の名古刹がある。

釜山は最近要塞地帯に編入されたので寫眞撮影の場合は憲兵隊の許可を受けねばならぬ。

【旅館】ステーションホテル(釜山停車場構内)、鳴戸(驛前)、大池(辨天町)、荒井(埋立新町)岡本(驛前)、宿泊料一泊二食付二圓——七圓、

(ろ) 大 邱

(釜山より一二五軒
京城より三二六軒)

慶尙北道廳の所在地、古來朝鮮三大市場の一として知られ、水陸交通上至便の位置を占め、且つ慶州方面へ行く朝鮮鐵道の分岐點として、其經濟圏は慶北慶南兩道に及んでゐる。附近一帯は平野で土壤肥沃農業に適し、穀類、果物、棉花、煙草の産出が多い。人口九萬四千八百餘人。内内地人二萬八千人。市街五十四町、區劃井然、官衙、公署、會社、商店、及び製絲、製筵工場の大きな建物が櫛比して中々殷盛を極めて居

る。

遊覽順序

驛↓商品陳列所↓元町↓達城公園↓西門市場↓東門市場↓驛
市内乗合自動車六錢均一

【名勝地】 ▲達城公園、新羅時代の達弗城址と云ふ、昔を偲ぶ何物も残つて居らぬが老樹蒼鬱景趣に富み丘上に大神宮が祀つてある。 ▼西門市場、東門市場、毎月六回の開市は地方的の取引で米・大小豆・魚類・海草・綿布・雜貨等を主とし其取引高西門市に於て毎月三十萬圓東門市に於て八萬圓内外に及んでゐる。又毎年十二月に開催せられる藥令市は藥材を主要取引物資とし其取引高一日七八萬圓殆ど一箇月間を通じて開市せられ、本道内は勿論遠く全鮮各地より參集するものは幾萬に上り開市日は白衣を以て肩摩穀擊の殷盛を呈する。 ▲頼慶館、府内上町にある。大正十四年大正天皇御即位記念として慶尙北道居住朝鮮人の寄附設立に係るもので慶尙北道商品陳列場となつてゐる。

【旅館】 花屋、唯屋、田中、吉田、小山、立花。一泊二食付四圓——七圓

○新羅古蹟 大邱から東海線の汽動車約二時間、慶州及佛國寺驛を中心として、二千年前半島に覇を稱へた新羅朝榮華の史蹟が散在して居る。城址、寺院、陵墓其他工藝美術の見るべきもの多く、我奈良朝文化の淵源を推知することが出来る。

慶州地方遊覽順序

慶州驛↓(六町) 博物分館↓(二十五町) 瓢岩↓(二町) 四面石佛↓(十四町) 芬皇寺↓(七町) 雁鴨池↓(四町) 石氷庫↓(三町) 瞻星臺↓(三町) 鷄林↓(十町) 五陵↓(十八町) 飽石亭↓(一里二十五町) 武烈王陵↓(二十五町) ↓驛歸著

佛國寺附近遊覽順序

慶州驛↓佛國寺驛↓(三十三町) 佛國寺↓(二十七町) 石窟庵↓(二十七町) 佛國寺↓(三十三町)
滿蒙旅行に就て

佛國寺驛↓(三十四町) 掛陵↓(三十四町) 佛國寺驛↓慶州驛

古蹟遊覽には慶州又は佛國寺に一泊する方がよい。慶州中心の遊覽には乗合自動車を利用出来る、料金一人八十錢で乗合客の無い場合は三圓二十錢。佛國寺驛と佛國寺間及掛陵間にも乗合自動車がある。料金各四十錢。

【旅館】 柴田、朝日館、慶州館、春日、(以上慶州) 佛國寺ホテル、一泊二食付二圓五十錢—四圓五十錢。

(は) 京 城

(釜山より四五一軒)

京城府は元韓國の首都で、李朝歴代皇居の地、今朝鮮總督府の所在地として、半島に於ける政治經濟其他主なる機關の首腦部は概ね此處に設けられてある。北に北韓山、鷹峯を負ひ、西北には仁王山屹立し、東には駱駝山聳え、南は南山に面し、漢江の巨流洋々として府の東南を繞り、山河襟帶形勝の地勢、内地の京都に似て居る。

市街は數年前まで城壁で内外に劃られて居たが、今は南大門、東大門だけを殘して其他の城門や城壁は殆ど撤去され、舊規模に比して三倍餘の現代的都市計畫に依る新なる京城府が建設されつゝある。府の最繁華區は鐘路で、主なる商業地は本町一帶、南大門通黃金町を中心として日本風の商買軒を竝べて活氣ある繁盛を見せて居る。電車は市内樞要の地點を連絡し、數年來市區改正も着々進行して、交通も便利になつた。人口三十二萬千八百人内地人が八萬六千五百餘人に及び外國人も約五千人居る。

○龍山 は今京城の一部で漢江に臨める形勝の地を占め、新舊兩市街に分れて居る。其龍山驛は京元線の分岐点であつて、京城との間には電車も通じ、總督府鐵道局及工場、朝鮮駐劄軍司令部、第二十師團司令部なども此處に在り、活氣横溢の有様である。

遊覽順序

(1) 電車を利用する場合

停車場↓(徒歩)↓商品陳列館↓南大門(徒歩)↓朝鮮神宮↓(徒歩)↓南山公園↓(徒歩)↓恩賜科學館↓(永樂町)↓(電車)↓昌德宮昌慶苑(晝食)↓(電車)↓バコダ公園↓(電車)↓總督府↓景福宮↓(徒歩)↓美術品製作所↓(徒歩)↓朝鮮銀行前↓(夕食後本町夜景)

(2) 自動車を利用する場合

停車場↓(自動車)↓商品陳列館↓南大門↓(自動車)↓朝鮮神宮↓(自動車)↓南山公園↓(自動車)↓恩賜科學館↓(自動車)↓美術品製作所↓(自動車)↓總督府↓景福宮↓(自動車)↓バコダ公園↓(自動車)

↓昌德宮昌慶苑↓(自動車)↓中央試験所↓(自動車)↓獎忠壇↓清涼里(普殿下陵)↓林業試験所↓(獎忠壇から引返し夕食後本町夜景)

市内には電車及乗合自動車がある、何れも料金は五錢均一。又市内各所を一巡し京城驛に歸着する市内遊覽自動車もある、此料金は一人三圓五十錢。貸切自動車の料金は市内一圓均一、時貸一時間四圓半日約二十圓、一日約四十圓

【名勝地】 ▲朝鮮神宮、京城舊城壁の搦手口南大門から南山へ三百八十有餘の石段を上ると官幣大

社朝鮮神宮がある、祭神は皇太神明治天皇の御二柱、長くも半島鎮護の主神にまします、丘續きは南山公園、脚に繞るは京城市街、遠く清涼里の森や漢江の水も見渡される。▲南山公園、満山老松鬱茂し京城の美しいバツクを成し、山嶺には燈臺と國師臺がある。倭城臺、京城神社、老人亭、獎忠壇など皆この公園近くにある。▲昌德宮、現時李王殿下の居邸で鐘路通の中央に在り、教化門から仁政殿に至る一廓の建物は李朝前期の代表的建築である。奥には幽邃な秘苑があり、其一部であ

滿蒙旅行に就て

る博物館と動植物園の外は一般に公開して居らない。▼景福宮、舊王城址で光化門通に在る。最近新築した總督府の廳舎がある。宮址第一の大建築は中央の勤政殿で、又四十八本の大花崗石柱を有し蓮池中に屹立せる慶會樓は實に壯麗なものである。宮境の東部には美術館があり。新羅の佛像や三國時代の發掘物、各時代の書畫など陳列して居る。▼慶運宮、又德壽宮とも云ひ西小門内に在り、故李太王殿下の居殿であつた。右の外市内で見べきは十三層の寒水石塔のあるパゴタ公園、普信閣、文廟、美術品製作所、商品陳列所、工業傳、中央試験所などがあり、郊外には櫻花の牛耳洞、紅葉の北漢山、散策には清涼里、洗劍亭、獨立門などがあり。漢江は夏は納涼、冬はスケーティングの滑走場となる。又府の北方約四里の處に文錄の役に名高き碧蹄館がある。

【旅館】 朝鮮ホテル、(長谷川町) 朝鮮風を加味した五階建煉瓦造の大建築、寢室八十四、其他の設備も整うて居る。室料三・〇〇以上、天真樓(南山町二丁目)、京城ホテル(南山町三丁目)、山本旅館(本町二丁目)、巴旅館(本町二丁目)、二見旅館(驛前)、御成旅館(南大門通)、大東旅館(南大

門通)、不知火旅館(旭町)、三重旅館(驛前)。一泊 二・五〇—八・五〇 茶代廢止

○仁川 京城から汽車一時間ばかりで仁川に達す。仁川はもと濟物浦と云つた一小漁村に過ぎなかつたが、明治十六年開港以來漸次繁盛となり、特に二十七八年役、三十七八年役は著しく此地の發達を促した。この港は由來潮水干満が甚だしく、大船の碇泊に不便であつたが、大正七年に開港式の築港完成し、船渠内に四千五百噸級の汽船三艘を同時に繋留し得ることとなり、港の面目は更に一新した。人口五萬七千餘人内地人一萬一千二百餘人、昭和二年度の輸移出入總額は一億三千二百〇四萬餘圓を突破して地形上對支貿易港としては朝鮮開港場中第一を占めて居る。

【遊覽地】 仁川公園、各國公園明治十五年花房公使が難を避けた月尾島、高麗時代の遺蹟の残つて居る江華島などがある。

滿蒙旅行に就て

【旅 館】 旭屋(濱町)、原金(仲町)、花屋(本町)、仁川(濱町)、東郷(寺町)。一泊 三・八〇―五五〇

(に) 裡 里 朝鮮米の移出港群山港及全北道聽の所在地全州邑への乗換驛。

○群 山 は錦江の下流にある一の河港で、従つて巨船を入れるゝに適しないが、全南平野に産する巨額の米穀は、大部分こゝから移出される、随つて米穀輸出港として全鮮第一位を占めて居る、人口約一萬四千餘人内内地人約五千七百餘人、昭和三年度輸移出入總額六千六百餘萬圓に達して居る。

【旅 館】 谷口、村上、若宮。一泊 二・〇〇―八・〇〇

○全 州 李王家祖先發祥の地、市街全般に古典的風趣溢れて居る、別名を桃京と云ふことほど桃花李花の名所、多佳山、慶基殿等の名所がある。人口二萬餘、内地人四千許り全羅北道の道廳は

此所に在る。

【旅 館】 萬岸、東雲、泉岸。

(ほ) 木 浦 は南鮮に於ける樞要貿易港で榮山江の右岸にある良港である。人口約二萬九千餘人内内地人七千八百餘人、貿易の主なるものは、米穀、棉花、海産物、製油等で、之に關する會社、工場が多い。殊に此の附近は棉花の産地として名高く、出廻期には埠頭一帯棉花の山を築く有様である。昭和三年輸移出入總額一億三千萬餘圓に達してゐる。見るべき所としては、松島公園、諭達山等がある。

【旅 館】 木浦ホテル、三吉野、柴田、淺海、虎屋。一泊 二・五〇―七・〇〇

(へ) 元 山 (京城より二二七軒) 元山は朝鮮東海岸に於ける唯一の良港で、下關へ三百八十哩、敦賀へ四百七十哩、釜山へ三百哩、浦鹽へ三百三十哩、灣内水深く錨地亦廣く大船

滿蒙旅行に就て

を碇泊させることが出来、北鮮海陸物資の中継所として、朝鮮名産たる明太魚を首め麻布、大豆、干鰯其他の魚類、棉花、綿布、紡績絲、食鹽、雜貨等の集散地で、人口三萬四千六百餘人内内地人九千三百餘人。

【遊覽地】は港灣一帯を俯瞰せらるゝ長徳山、白沙青松の松沙里、稍々離れては居るが加藤清正の築造した望徳山などがある。

【旅館】大東館(旭町二丁目)、愛媛館(海岸通)。一泊 五・五〇—八・〇〇

○金剛山 元山線に入つた人は天下の奇勝たる金剛山の探勝に其幾日かを割かねばならぬ金剛山とは、朝鮮半島の脊梁を爲せる白頭山の連脈が、江原道の東北部に於て、一大山彙を生じた奇峰怪嶺、所謂一萬二千衆峰の綜合名稱である。宇宙の名山之れと奇絶を争ふものなしと古から誇つた丈けあつて、其の豪宕、崇高、百の耶馬溪を以てするも、尙金剛山の雄

大怪奇を説明する事は出来ないのである。

其の地域は海陸にかけて約十餘方に亘り、大別して内金剛、外金剛、海金剛となつて居る。内金剛は金剛の正脈なる將軍、雁門、白雲の連峰の内部に位する部分を云ひ、長安寺、靈源庵、望軍臺、白華庵、三佛巖、表訓寺、正陽寺、萬瀑洞、摩訶衍庵、昆廬峰、妙吉祥の諸勝があり。外金剛は内金剛と沿岸連峰の間を沿ひ、寒霞溪、萬物相、神溪寺、玉流溪、九龍瀑、九井峯の諸勝がある。また海金剛は沿岸連峰の日本海に没する高城附近を云ひ、岩礁亂立の畫景をなし居る。

金剛山を構成する主要の岩石は、黒雲母花崗岩に屬するもので、外觀は堅緻であるが石理が割合に粗い爲に、比較的風化作用を受く易く、幾千年の風化浸蝕により變幻極まりなく又端倪すべからざる怪奇の岩體を現し、之が悉く此山の特徵たる光澤ある紫紺色を帯びて、雄

大豪壯なる山容を成し、又その深い峽豁の兩側は、砥の如き巨大の一枚岩が或は斜面となり、或は平面となり、又遠い崩壊時代に墜落した巨岩が形状をなして溪間に横はり、急湍其間を走るところ或は瀑となり或は碧潭となるので、春花秋葉其間を彩るの時、青嵐雪山を掠むるの時、茲に明麗にして凄慘なる清淨の別天地を表現するのである。

この金剛山探勝の通路は (一)京元線鐵原驛から電車で末輝里に至りこゝから自動車に依つて、内金剛山の長安寺に至るもの、(二)元山から欽谷まで汽車、そこから自動車で庫底、通川を経て外金剛の温井里に至るもの及び (三)元山から海路長箭に上陸して温井里に行くもの、三徑路があり、探勝季節の五月十五日から十月末日まで前二者は自動車で毎日定期に探勝客の交通に便して居る。

【旅 館】内金剛の長安寺ホテル、内金剛旅館、外金剛の温井里ホテル、嶺陽館、萬龍閣、常磐館、松月館、高城の高城館、長箭の金剛館、三陽館等がある、ホテル一泊り・五〇以上日本旅館三・〇〇―五・〇〇 朝鮮旅館一・〇〇―二・〇〇

(と) 平 壤

(京城より二六一軒)

往古箕子及高麗の都した朝鮮最古の都府、大同江の北

岸に位し、肥沃なる平野を東南に控へて農事が盛んなばかりでなく江の下流には三菱製鐵所のある兼二浦があり、鎮南浦には水運の便に加へて平南線の通ずるあり、寺洞勝湖里に至る炭鑛線もあり、いはゆる四通八達の樞軸に據つて商業が盛んであるが、近年西鮮地方の鑛業の發展と共に又其中樞地となり、大工業地としての榮ある將來を有することとなつた。溶々たる大同江は市の東を流れ、瑞氣の丘陵は市の背後に起伏して天與の風光に富んで居る。文祿の役には小西行長が來駐したことがあり、二十七八年役には野津將軍の壯烈なる包圍攻撃を以て知られ船橋里、玄武門、牡丹臺など久しく錦繪の好材料であつた。三十七八年の役にも陸上の第一戦は實に此の地七星門外で火蓋を切つたのである。人口十四萬五千餘人内地人二萬六千七百餘人。平安南道廳、諸官衙、學校、病院、金融機關、工業會社、歩兵第三十

九旅團司令部、歩兵第七十七聯隊本部、航空第六大隊、朝鮮兵器製造所等、悉くこゝに集り北鮮第一の繁榮な市街である。

遊覽順序

停車場(電車)↓大神宮前(以下徒歩)↓七星門乙密臺↓箕子廟↓玄武門↓牡丹臺↓永明寺↓お牧の茶屋↓浮碧樓↓清流壁(大同江を屋形船にて河降)↓大同門(上陸徒歩)↓練光亭(徒歩)↓妓生學校(以下徒歩又は電車)↓博物館↓商品陳列館↓停車場

遊覽には電車を用ひる、料金一區五錢、若し自動車を用ひる場合は一時間五圓割りにて三時間位にて済む、人力車なれば一日三圓五十錢位

【名勝地】市内で見るときは驛前に在る高麗時代の「七重石塔」大同江畔の「大同門」、夫に隣接せる「練光亭」、其上流に臨める「牡丹臺」、「乙密臺」其兩臺の間に在る「玄武門」牡丹臺の下にある「浮碧樓」、「乙密臺」の西にある「箕子廟」平壤の北門たる「七星門」などがあり、この畫景の下を流

る、大同江の舟遊が特に旅行者に歡ばれる。

【旅館】鐵道ホテル(山手町)、三根(壽町)、つばめ屋(東町)、櫻屋(旭町)、大同館本支店。一泊三・〇〇—八・五〇

○船橋里 郵便局前より電車で大同橋を渡ると其の終點が船橋里である。此の邊りは將來市街の膨脹につれ工業區たらん形勢を示し、現に平壤工業の代表的工場たる大日本製糖會社工場及朝鮮電氣興業會社及陸軍で飛行聯隊等は此地に在る。電車の終點より數丁大同江岸の林中に立つて居る忠魂碑は日清の役大島少將の混成旅團平壤城の正面を攻撃し、敵を此の方面に牽制に努めた處で、附近の老樹には彈丸貫通して蜂の巢の如く當年の惡戰苦闘の痕を留め、一片悲愴の情訪客をして慄然たらしむるものがある。碑銘に曰く

『嗚呼我旅團將校以下百四十名忠奮戰死之處』

○寺洞炭鑛 平壤炭鑛線船橋里の次驛を寺洞と云ふ。現在は平壤から市街電車が延びてゐる。海

滿蒙旅行に就て

軍燃料廠、平壤鑛業所の所在地で我が領土内に於て最も良質且つ多量の無煙炭を産する處として著名である。一箇年約十三萬噸を産して居るが、藏鐵は無盡藏だと稱せられて居る。採炭の内五萬五千噸は鐵道に依り鎮南浦に搬出し更に徳山の海軍燃料廠に輸送されて居る。

○樂浪古墳 樂浪時代(約二千年前)繼續的の四百二十年の永い間政務の中心となつてゐた樂浪の遺跡は今大同江鐵橋より約半里下流の土城が實にその郡址の址である。この郡址を圍む古墳の數は夥しく一千百三十基と算せられてゐる。之等古墳に埋藏せられた副葬品は當時の藝術の進歩を語る好箇の資料として史家の感興を喚ぶもの多くその一部は今平壤中學校にも保存陳列されてある。

○江西古墳 平壤から鎮南浦支線により汽車一時間餘りで岐陽驛に著く。驛の西北三里郡廳所在地江西邑の附近賢遇里に三箇の大墳塚が鼎立して居る。此墳は漢樂浪時代に屬する古墳で俗に江西古墳と云ひ、塙内玄室は石槨式、壁面及天井に描かれた四神圖、草花之模様等は現代表現派の表現に似て一種の畫風を成し、東洋最古の藝術繪畫として斯界に尊重せられて居る。

(ち) 新義州 是朝鮮の北門、國境の第一前線である。こゝは元と江瀨の一砂洲に過ぎな

かつたが鐵道架橋の地點となるに及んで爾來長足の進歩を爲し、今日の如き大市街を形成するに至つた。一水を隔て、安東との經濟關係倍々密接を加へ殆んど國境を撤して同一市たるやの觀を呈し、安東と共に明治四十三年以來開港地として米穀、木材、牛皮、生牛等を輸移出し、石炭、木材、粟を、輸入してゐる。市内には營林署の製材工場を始め新義州製材、其他の會社工場を以て埋り、平安北道廳も義州より移轉せられて現今は政治經濟共に樞要な位置を占めてゐる。旅客が新義州に入つて特に注意を惹くものは支那労働者の多く其勞銀の低廉なこと、安東との鴨綠江を介して微妙なる交渉を有することである。

○鴨綠江と大鐵橋 國境を限る鴨綠江は東北白頭山に源を發し、滿洲より渾河を容れて益々其大を成し百四十里の間を奔下し滔々として黃海に入つてゐる。新義州から對岸安東へ江を横斷して架、

た一大鐵橋は彼の「……………東洋……………」と民謡に唱はるゝ通り東洋一の大規模を有し、長さ三千九十八呎、二百三十九萬圓の工事費二箇年の日子を費して成つたものである。橋桁が十二連、一日三回中央の一桁が開閉されて船の上下に便することゝなつてゐる橋の中央は鐵道線路となり鐵路の兩側八呎が歩道となつて居る。實にこの鐵橋こそは支那への通路であり又歐洲大陸との國際道路である鴨綠江鐵橋開閉時刻

鴨綠江鐵橋開閉時刻は左の通定めてあるが毎年結氷期中は之を中止してゐる。

午前九時三十分、午後一時二十分、午後五時

(り) 安 東 (南滿洲鐵道安奉線起點釜山より九五〇軒) 安東は新義州と對して鴨綠江の

右岸に在り、新舊兩市街に分れ舊市街は支那人街で、新市街は邦人の建設經營するところ、街衢整然、商業殷賑、日、支、鮮の貿易が盛んに行はれてゐる。

鴨綠江は流域二百餘里、舟楫を通すること百二十餘里、其河口は一帶に水淺く大船の出入、

に不便だが、輸出入の貨物は多獅島安東間を舢舨や小蒸汽で輸送して海上との交通を保ち、冬期江上結氷の際は其氷上を利用して、地方から輸出する大豆等の輸送をするので、安東に於ける貨物の取引は却て此の期間に於て繁忙を來す有様で、柞蠶、大豆、豆粕、豆油、高粱木材など、鴨綠江岸一帶の奥地に産する物質は、凡て此地を集散地として貿易せられる。人口は新舊市街を合せて十三萬三千餘人内地人一萬六千五百餘人。貿易年額約一億四千八百餘萬兩に達して居る。

【遊覽地】は舊市街の北背に獨岐する元寶山、其麓の關帝廟、新市街の背後に聳ゆる鎮江山、其山腹に臨濟寺があり、山坡には忠魂碑がある。

【旅館】新義州ステーションホテル(新義州驛構内)安東ホテル、富久壽美、元寶館、日の出館何れも驛から四五町。一泊 二・五〇—八・〇〇(人力車)市内十錢より十五錢

滿蒙旅行に就て

(ぬ) 五龍背 (安東から二五軒) は沙河上流の一村落であるが、河岸から湧出する温泉を以て、其の名を知られて居る、四圍の眺望亦佳。

【温泉旅館】 五龍閣は驛から五町。一泊 四・〇〇—七・〇〇

(る) 本溪湖 (安東より一九九軒) 一に蜜街とも云ひ、昔から有名な紅蜜の産地として知られて居る。外觀は常滑焼に似て其質が硬く、支那人間に賞用せられて居る。

此地は近年石炭、鐵鑛、石灰の産地として知られて來た、炭坑は市街と太子河畔との間に横はる照山の麓にあり、日支合辦の煤鐵公司の經營で、炭層數二十、炭質は半無煙炭で最も製鐵用に適し、コークスを製造するに適して居る。鑛區は千百五十六萬坪、一箇年の出炭量約三十萬噸、製鐵業も同公司の經營で、南攻の南東五哩廟兒溝で採掘し此地に運搬製煉するので、熔鑛爐二基を備へ、一日の製鐵高は二百六十噸である。溪城鐵道も日支合辦事業で、

今牛心臺炭坑所在地までの間九哩三分開通して居る。

【遊覽地】 は市外半里觀音寺境内に在り石炭岩の水蝕によつて洞窟をなせる龍洞、太子河畔にある龍王廟、沙河大會戰の攻撃目標であつた兜山、桂山の二山、太子河左岸にある顧王墳などがある

【旅館】 三吉、福住、清水、本溪湖ホテル、(孰れも驛の附近にあり)。一泊 二・〇〇—八・〇〇
(人力車) 市街五錢、十錢

(を) 奉 天 (安東より二七六軒、大連より三九七軒) は一に瀋陽又は盛京と稱し、清の太祖皇帝還都の地、遼河の支流たる渾河畔に位し、天津、營口、撫順、法庫門等各街道の要衝に當り、南滿洲鐵道本線及安奉線、と平奉線、奉海線の交叉地點で、古來東三省に於ける政治上の中心地たりし所、今現に遼寧省廳の所在地である。滿洲内地貿易の中心市場として、商業範圍は可なりに廣く、商務會、陳列館、日本各銀行支店出張所、支那各官銀行などがあ

滿蒙旅行に就て

つて、金融の圓滑を計つてゐる。

各種の工業は大して發達はせぬが、油房、燒鍋、煙草、硝子、石鹼、蠟燭、膠、織布などが盛んで、其他南滿製糖及滿蒙毛織會社等がある。又附近は地味が豊饒で、大豆、高粱、粟米、玉蜀黍などの農産物に富み、近年邦人經營の水田の成績も大に觀るべきものがある。

市街は滿鐵附屬地、開埠地、城内の三區界に分れ、城内は内外の二城より成り、奉天驛の東方一里餘の處は、灰黑色の磚壁堂々たる城廓を成せるが即ち奉天内城で、城内の周圍約一里半、高さ三丈餘、裕に野砲放列を布くことが出来る。城は周圍八門に通ずる井字形の大街路を骨子とし、中央部に宮殿、省廳等があり、小西門から大東門に通ずる大街上には鐘鼓樓がある、其他の街衢は八旗の邸宅、官吏の公館を以て充たされて居る。外城は内城の外苑を楕圓形に包せる土城で、周圍約四里の間に八邊門あり、其大街路は内城各門と略同一線上を貫

いて大家巨舖軒を列べて居るが、其他の街衢は極めて不規則な状態をなして居る。

鐵道附屬地は停車場を起點として碁盤形に區劃せられ公園、廣場の築設、上下水道の完備共同事務所の新築等、文明的新市街を現出して居る。この附屬地と城内の西邊とに連接せる十間房竝に大小西關一帶の地界が商埠地で、各國人の雜居地であるから、日本總領事館を初め諸外國の領事館、支那交渉局など皆この界限にあつて、市街殷賑商況活潑である。停車場前から大西關まで電車が通じ又乗合自動車も通つて居る。人口は城内約二十七萬三千、商埠地四萬三千餘人内地人三千九百、附屬地三萬四千八百餘人内地人一萬八千七百餘人に達して居る。

遊覽順序

○普通觀光の場合

滿蒙旅行に就て

滿蒙旅行に就て

驛↓忠靈塔↓城内↓小河沿↓北陵↓驛

○精細觀光の場合

驛↓忠靈塔↓城内↓小河沿↓北陵↓法寧寺↓天地廟↓皇寺↓露國忠魂碑↓西塔↓滿蒙毛織會社↓製糖會社↓松島公園↓奉天神社↓醫科大學↓驛

遊覽には馬車を使用するが一番よい、一臺に付前者の場合三圓位後者の場合四圓位で二人乃至四人迄乗れる。若し自動車を使用するとせば前者六圓位、後者十二圓位で一臺は三人乗りである。驛前から城内大西門迄の間には電車もある。料金は一區五錢で驛と大西門間は五區である。

【名勝地】 宮殿、清の太祖及太宗の宮居で約三百年前の建築、城内のほど中央に位して居る。

▼城内に於て見るべきものは宮殿の外に市場、同善堂の社會救濟事業、小河沿の遊園地等があり、▼城外には喇嘛塔、白塔、黃寺、皇寺、北陵等がある、就中北陵は原野の珍しい森林中に黃瓦碧瓦の美しい、殿樓が數多聳立し、石門、石階、石欄、壁間及牌樓等の精巧緻密な彫刻と相俟ち、滿洲

最優の建築美として著聞して居る。

【旅館】 ヤマトホテル(琴平町) 滿洲旅館會社經營の洋式旅館、室料三・〇〇以上。其他都ホテル

ル(浪速通) 瀋陽館(附屬地琴平町) 大星ホテル(西一條街) 常盤館(驛前) 東洋ホテル(西塔大街) 富屋旅館(西大街一丁目) 日進館(宮嶋町) 滿洲館(浪速通) 一泊 二・五〇—二・〇〇

○撫順 本線渾河驛から岐れ渾河左岸に沿うて東し、撫順に出づるもの全長四九浬、

列車は奉天驛を始發驛としてゐる。撫順炭坑は、滿鐵の經營に係るもので、此の地を中心として、大堅坑、斜坑露天堀等南北一里東西四里に亘る炭層は、厚さ最も薄き所でも七十八尺最厚四百二十尺、平均百三十五尺、埋藏量實に九億噸と算せられ、一日二萬噸宛を採炭してゐるが、之れが採掘を了るには、今後百年を要するといふ大規模のものである。この地もと寂寞たる一寒村に過ぎなかつたが、日露戰役後、炭坑經營が我手に歸して以來急激に發展し

人口七萬七百餘人内地人一萬五千四百餘人を有する文化的に一大模範市街を形ち造つたのであつたが其後炭坑採掘の進捗に伴ひ、新市街の地底をも採掘するの計畫成り、舊撫順驛の北方二哩の地點永安臺に撫順驛を移し更らに此處に新市街の建設移轉を行ひ、大規模の採掘を開始して居る。

【觀察及遊覽個所】 大山又は東郷坑、露天堀、モンド瓦斯工場、オイルセール工場、撫順城、撫順神社など。

【旅館】 筑紫館支店(驛前)一泊 四・〇〇—八・〇〇 茶代廢止 壽館(永安大街)一泊 三・〇〇—六・〇〇

(電車) 驛—炭坑間 一區十錢 全區間二區

(人力車) 一時間三〇錢位 一日約二・〇〇

(わ) 遼 陽 (奉天より六五斤、大連より三九七斤) 遼陽は滿洲最古の城市である、春秋

戰國以前の事蹟は遼として知る由もないが、箕子、衛滿等の都したのは恐らく此の附近であつたらうと云はれてゐる、其の後春秋幾百星霜、従つて名所舊蹟甚だ多い、人口約九萬八千、内地人四千六百人に上つて居る。

日露の役遼陽の大會戰は、内外人の熟知する所で、露軍約十三箇師團に對し我軍の十箇師團弱を以て、六日間連續激戰した所、城外三面の丘陵は皆當時の對戰地でないものは無く、就中首山、黑英臺、仕官屯、紅沙嶺、其他の高地には殘壘廢堡今猶存し、人をして當時の慘狀を偲ばしむるに足る。

【城 壁】 は驛の東南約十町の所にあり、明の洪武年間に改築したものである、當時は南北二城に分れて居たが、清の大祖此城を毀ち、新城を太子河の右岸に築いた、今の所謂土城若しくは北哨堡は即ち北城の遺跡である。

滿蒙旅行に就て

【名勝地】▼忠魂堂、停車場から南方約十町。▼白塔公園、附屬地内にあり、東漢時代に建立せられたる廣祐寺の遺跡で、園内に聳立する白塔は高勾欄以後の建造に係り一千餘年の星霜を経たるものである。園内には遼陽神社を奉安して居る。

【旅館】遼塔ホテル、油屋旅館。一泊 三・〇〇—五・五〇

〔か〕鞍山

（奉天より九〇軒、大連より三〇八軒）

滿鐵經營に係る鞍山製鐵所の所在

地であるこの附近は全山之れ鐵と云つた状態で、鑛量十億噸と算せられて居る、本製鐵所は、這般歐洲戰亂に鑑み鐵材自給の急務を認め、將來は一ヶ年銑鐵百萬噸製出の計畫を立て大規模の設備を施したものであるが、歐洲戰亂終熄と共に斯界は急轉直下悲境に陥り、市況不振となつたが、最近貧鑛處理法として還元選鑛法の發見に成功したので、現在年産額二十八萬、應を算せられて居る。

【旅館】近江館、紅葉館、扇屋、一泊 二・〇〇—七・〇〇

（人力車）驛—製鐵所 片道二〇錢位

〔よ〕湯崗子

は滿洲に於ける有名な温泉地で、温泉旅館は驛から三丁、湯崗子温泉會社

の經營になる、對翠閣、玉泉館、清林館及龍泉別墅等がある。

一泊 四・〇〇以上 茶代廢止

〔た〕大石橋

營口支線の乗換驛、物産にマグネサイト、滑石がある。驛の南一里半の遼

鎮山の海雲寺には名高い娘々廟がある、毎年舊曆五月十六日の廟祭には、遠近から參詣する善男善女十萬餘に及び、爲めに原野は人と蒲鉾馬車とで殆ど埋められて仕舞ふ。

○營口（大石橋から二三軒）牛莊とも稱し、遼河河口から約十四哩の上流左岸にあ

る高埠である。大連開港以前は滿洲に於ける需給物資の唯一の吞吐港として市況の隆盛眞に

滿蒙旅行に就て

驚くべきものであつたが、今は昔日の繁榮は無い、が遼河水運の便を有するので奥地との關係上、商的地盤は牢として抜くべからざるものがある。工業としては油房、煙草製造、煉瓦製造、醬油釀造等盛んで、近年製紙業を計畫して居るものである。

【旅 館】 清林館、宿泊料一泊二食附三・八〇—九・〇〇

(れ) 大 連 (南滿洲本線起點、釜山より一六九一軒、奉天より三九七軒) 大連は大連灣の右

翼岬角、黄柏嘴に連なるヅキクトリア灣の一部を占め、前面は海を隔て、大孤山岬角と相對し、背面には丘陵を負うて居るので、自ら北西南三面の荒風を遮り、纔に東方の一路を黃海に向つて開き、滿蒙開發の大動脈たる南滿洲鐵道の起點地として、極東貿易港の一權威である。

市街は主に露治時代の設計を踏襲し、大廣場を中心として放線形に大通を岐出し、夫を經

に小通を緯織して四公園六廣場を有し、宛然蛛網狀の一大街衢を形成して居る。電話、電氣瓦斯、上下水道の設備も完備し、道路は歩車道の區別あり、歩道は凡てコンクリート方槐板を敷き詰め、車道はマガダム式舗礫道とし、歩車道の間には排水側溝を設けあり、歩道に植ゑた、アカシヤ、ポプラなどの街路樹の緑が旅行者に爽快な感じを與へる。大廣場の南部一帯には各國領事館、大連民政署、市役所、滿鐵本社などあり、官衙區とも云ふべく、大廣場の北部は諸會社、銀行、新聞社、旅館、市場、各種の店鋪櫛比して商業區をなし、埠頭の南部即ち東廣場界隈は豆油及豆粕造業の本據地、自ら工業區を爲して居る。電車は埠頭から市内の大通に周通し沙河口、老虎灘に至り郊外線は名勝星ヶ浦に通じて居る。

埠頭も滿鐵の經營で、防波堤約百萬坪の海面を抱擁し、現在三箇の埠頭延長一萬四千餘尺同時に三十六隻の船舶を繋留し、二萬噸の巨船も横付け得るに足り、汽車も亦此處に發着し

て船車の聯絡も完全に行れて居る。其他待合室の設備、埠頭陸橋等何れも東亞稀れに見るものである。構内には現在倉庫七十八棟、十萬坪の廣さに及び、此の外約七萬坪の野積場があり、冬期特産品出廻期の豆丘穀堤は實に壯觀である。

貿易品は輸入は綿織物を第一とし、綿絲、麥粉、金屬、機械器具、煙草、石油、木材等に亞ぎ、輸出は豆粕、大豆、小麥、豆油などで、貿易年額約六億圓、人口約二十一萬七千餘人中内地人が八萬人に及んで居る。

遊覽順序

驛↓露西亞町↓滿蒙資源館↓埠頭↓油房↓華工收容町↓大廣場↓常盤橋↓西樹子公學堂↓露天市場↓星ヶ浦↓驛

此外に大連取引所、信濃町公設市場、工業博物館、電氣遊園、中央公園及び老虎灘等の遊覽箇所も

ある。乗物は電車を利用せば四十錢位（一區五錢）馬車三人乗りで約六時間にて二圓四十錢、自動車なれば約四時間にて十二圓である。

【名勝地】▼滿蒙資源館、滿蒙に關する鐵産、林産、農産等各種參考資料を網羅し滿蒙研究者の見逃すべからざるものである。▼公園、幽寂な森林美を有する中央公園、小さい乍ら各種のスポーツ場を持つて完備した兒童公園の觀ある露西亞町の北公園、高臺の尖角にあつて、市を一瞬に集め、活動寫眞、スケート場、ボーリング、動植物園、簡易圖書館を有する電氣遊園等も一覽の價値がある▼星ヶ浦は大連から二里の海濱にあり、園内には星ヶ浦ヤマトホテル及瀟洒な貸別荘、旗亭、温泉ゴルフリング、海水浴場等あらゆる遊樂の設備を整へ滿洲無二の遊樂避暑地である。

此處から旅順に續く坦々たる旅大道路に晩春から初秋へのモーターリングドライブは爽快無比である。▼老虎灘は郊南一里餘の海濱にあり、滿洲稀れに見る奇勝の處で避暑賞遊の地として名高い。▼沙河工場。市西北沙河にある滿鐵機械工場であつて、同時に客車三十餘輛機關車二十餘輛、

滿蒙旅行に就て

貨車百三十輛を同時に收容し得る尅大なる能力と設備を有する大工場である。

▼小崗子市街、大連市の西端に連なる華人街で、商賣店輔軒を連らね股賑を極めてゐる。

【旅 館】 大連ヤマトホテル、大廣場にあり、滿洲旅館會社の經營する洋式旅館、客室百十五室料

三・〇〇以上。その他遼東ホテル（信濃町）、磐城ホテル（磐城町）、花屋ホテル（信濃町）、春田旅館

（監部通）、吾妻旅館（信濃町）、大連ホテル（愛宕町）、日本橋ホテル（日本橋通）、一泊 三・五〇――

一〇・〇〇何れも茶代廢止

（そ） 旅 順 大連から汽車一時間餘りにて達す、車窓旅順に近づくに従つて往年日露

攻防戦に凄慘を極めた當時の追憶を新たにするものがある。

旅順は遼東半島の最南端に位し、四周岳山の別天地にあつて碧水深き海灣に臨む。港は東西二港に分たれ、東港は我海軍要港部の所管に屬し、西港は近年修築して商港としたが、尙

連の補助港に過ぎない。市街も新舊兩市街に分たれ、龍河河口の北岸なる旅順驛を中心として、其東を舊市街、西を新市街と云ひ、舊市街は商業區、新市街は官衙區で關東州政治機關の首腦たる關東廳其他の官舎など宏壯な建築物がある。人口約二萬。

遊 覽 順 序

驛→白玉山→戦利品紀念館→東鷄冠山→北堡壘→博物館→爾靈山→驛

遊覽順序は各種に編むことが出来る、又時間に餘裕ある希望者は右以外に二龍山、松樹山、水師營等も巡覽するとよい。乗物には馬車を使用し三人乗りで（六時間）四圓位、自動車なれば四人乗り（三時間半）で九圓位である。但し二龍山、水師營をも加へると馬車賃八十錢、自動車賃二圓五十錢増しとなる。

【戰 蹟】 旅順の地は海に陸に行くとして過去二大戦役の慘禍追懐の遺蹟でない處はなく、此地に
滿蒙旅行に就て

入る旅行者の主なる目的も亦戦蹟巡覽にある。小波寄する汀にも、霞たなびく山々にも、國の爲に命を捨てた人々の想が残つて、俯仰佇立斷腸の感を起さぬ人はない。▼白玉山、驛の前面に聳ゆる海拔四百餘尺の丘山で馬車で頂上まで行ける、頂上に高さ二百十八尺の表忠塔と納骨祠がある。▼記念品陳列館、要塞の模型、攻圍戦に使用した武器などがある、▼東鶏冠山北堡壘、十一師團決死隊が明治三十七年十二月十八日占領の地、▼望臺、同師團が開城の前日明治三十八年一月一日に占領の地。▲二龍山堡壘、第九師團が十二月二十八日第四回の總攻撃によりて爆破占領の地。▼松樹山堡壘、第一師團白濤隊苦戦力攻の地。▼露國忠魂碑、帝國官民の建設したもの。▼二〇三高地。乃木將軍のいはゆる爾靈山、旅順四圍連嶺中最も高く、我爭奪戦の撃烈なりし地。▼水師營、乃木ステッセル兩將軍の會見地。

【旅 館】 ヤマトホテル、(滿洲旅館會社經營) 旅順ホテル、防長館、賓來館、福壽館など一泊
二・五〇—八・〇〇

(つ) 鐵 嶺

(大連より四六八軒、奉天より八〇軒) 遼河沿岸樞要の地、鐵道開通以前は

奉天以北の中心市場であつたが、近年開原勃興の爲に幾分繁榮を奪はれた觀があるが營口との商業關係極めて深く、奥地市場との取引も廣く、滿蒙貿易中繼地として天惠の穀類集散市場である。附近一帯高粱、大豆、粟の産出が多い。人口は約四萬人である。

【名勝地】 ▼龍首山、は當地第一の遊園地でこゝに登臨すれば、全市を一眸に集め、遠く柴河を雲霧の間に望むことが出来る。▼鐵嶺城、は洪武年間の築造に係り其後屢々修築したもので周圍二十四町餘、糧棧、雜貨舗、油房、布舗相並び市況稍々賑かである。其他商品陳列館も一見の價値がある。

【旅 館】 松葉ホテル(銀州街) 近江屋(日の出町)、松花ホテル(中央通)、鐵嶺館、(若竹町)、一泊二・五〇—九・〇〇

(馬車) 一時間一圓 半日五圓五〇錢位 (人力車) 一時間 三〇錢 半日一圓位
滿蒙旅行に就て

(ね) 開原

(大連より五〇二軒)

驛の所在地、はもとは開原城外草原の一寒村に過ぎ

なかつたが、鐵道開通後從來鐵嶺に集散した海龍、山城子、大疣疽、掏鹿の特産物の集散地となり、其數量逐年増加し、急速なる經濟的發達を見るに至つた。東部地方一帯は土壤肥沃農耕に適し、其大豆は良好なる品質を以て知られ、關東廳では此所に取引所を設けて特産物の取締をして居る。附屬地人口五萬六千餘、工業は油房、燒鍋、煉瓦窯などがある。

開原城は驛の東北二里半を隔て、南滿洲最古都市の一で、奉天城と同時代に建てられたもので、近年鐵道附屬地の發達に連れて、昔日の隆盛はないが、猶人口二萬人を有して居る。

【旅 館】 二葉(第三區)開原ホテル、花屋旅館(開原大街)。一泊 二・〇〇—二・〇〇

(人力車) 一時間三〇錢 半日一圓位

(な) 四平街

(大連より五八六軒)

買賣街、八面城、鄭家屯、半拉山などに通ずる要衝

に當り、加ふるに入蒙の關門として、外城千里の沃野は無限の寶庫をなし、大豆、高粱、麻子包米、蘇子、瓜子、粟などの農産物に富み、年々當地を經由する各種の穀物は六七十萬石、取引額二千萬圓に上る。長春、開原に次ぐ物資集散の大市場で、四洮洮昂鐵道の開通以來、蒙古に對する物資供給の源泉地として、商況は更に活潑となつた。

殊に附屬地に對抗して支那新四平街も發達し全く新興氣分の活氣ある街である。

(人力車) 一時間三〇錢 半日一圓位 (馬車) 一時間一圓位 半日三圓五〇錢位

【旅 館】 小松屋、植半。一泊 四・〇〇—八・〇〇

(ら) 公主嶺

(大連より六四〇軒)

通懷、德縣地方の大豆雜穀出廻り多く、沿線屈指の

輸出市場である。市街は架空橋である泰平橋を挾んで、南北二街に分れ、北街は諸官衙、兵營、滿鐵宿舍であるが、南街は商業區として商家軒を竝べ、整然とした市街である。之れに

隣接して支那町があり、小商賣多く相當繁華を示してゐる。

【觀察すべき個所】 ▼公主嶺農事試験場は、附屬地内にあり、滿鐵會社の經營に係り農牧、林産の改良増殖に關する各種の試験並に調査研究を行ひ、普く良種の普及を圖り滿蒙に於ける農、牧林産界に裨益する所非常に多い。

【旅 館】 丸福、太丸。一泊 三・〇〇 七・〇〇

(む) 長 春 (大連より七〇二軒) 長春は我南滿洲鐵道の終端地で、東支、吉長兩鐵道の連絡地點として所謂三國折衝の要點となつて居る。松花江と遼河の兩流域に跨れる沃野の樞軸に地位を占めた此地は、夙に南北滿洲に於ける農産物の一大集散地として知られ、初冬から晩春にかけて運搬せらるゝ大豆、雜穀類は年々五十萬石に上る。新市街は長春驛の周市街は複雑で新市街、開埠地、舊城市、寛城子の四部に分れて居る。

邊で驛前及東西廣場の三中心點より放線形に走る大通を骨子として、碁盤形の街路が之と交叉し、路面はマカダム式に築造せられ人口約二萬八千五百餘人である。舊城市は伊通河に臨み、人口八萬を有し、又開埠地は人口五萬餘、明治三十八年以來條約上の互市場として開放せられた處で、頭道溝を隔て、新市街と接続し、道路諸建築凡て洋式に依て施設せられ、支那内地には珍らしき程清新なる市街である。

遊 覽 順 序

驛↓南廣場↓東廣場↓日本橋↓領事館↓滿鐵醫院↓公學堂↓西公園↓驛

長春の遊覽には特に一日を充つる必要はない、右の順序にて約一時間を費し馬車で一巡りしたらよい。馬車は三人乗り一臺で五十錢位である。

【觀察地】 ▼寛城子。は我長春驛の北方二軒の地點にあり、曾て露治時代當地唯一の鐵道車站として

滿蒙旅行に就て

繁榮區ならんとしたが、滿鐵長春驛開設以來市場の中心は漸く長春に遷り、今や復昔日の面影なく、形ばかりの歐風市街に若干の露國官署と兵營、鐵道吏員の住宅があるのみである。其他城内、關帝廟、城隍廟、聖人廟、九聖廟などがあり、製粉會社工場も見べきものゝ一つである。

【旅 館】 ヤマトホテル(驛前) 室料三圓以上、日清館(驛前)、常磐館(三笠町)、名古屋館(東第一二區)、西村旅館(東第七區)、大丸旅館(第一二區)。一泊 三・〇〇—二・〇〇

(う) 鄭家屯 (四平街より八八軒) は滿洲から蒙古に入る咽喉で、地味肥沃穀類の耕作に適し、物資の豊富なる奉天省中稀有の地である。市街は驛から二支里、人口約五萬、市の東南に商埠地があり、高粱、大豆、雜穀、皮革、曹達及牛馬を輸出し、石油、鹽、石炭等を輸入して居る。

【名勝地】 砂丘(市外西南約一里)、溫都魯王府(西北〇里)。

【旅 館】 鄭家屯ホテル、一泊 二・〇〇—四・〇〇

(い) 通 遼 (四平街より二〇二軒) は一名白音太拉とも云ひ、十餘年前まで寂寞たる一荒野であつたがその附近は元來頗る肥沃な地であつたので、開耕されて以來長足の進歩を爲し、現在は住民約四萬を算し、奥地との關係上將來非常に有望な處である。支那鐵道の所謂打通線は此驛より連山灣に達して居る。

(の) 洮 南 (四平街より三一三軒) は鄭家屯の北約二二五軒の地點にあり、東蒙に於ける政治經濟上の一大中心地で又農業及畜産市場として名高い。當地は日露戰役以前は寂寞たる一蒙古部落で僅僅十指に滿たぬ土屋の點在するに過ぎなかつたが戰役勃發後北滿からの家畜の取引市場として急激の發達を見今日に至つたものである。

【名勝地】 洮兒河、シヤチガイモトの枯樹、小西門外。

滿蒙旅行に就て

【支那旅館】 集東棧、天官 一泊 一・五〇位

(お) 昂昂溪 (洮昂鐵道洮南より二二九軒) 洮昂鐵道線昂昂溪は本鐵道終端として新らしく開かれたもので東支鐵道齊齊哈爾驛(昂昂溪)を去る約二軒の處にあり、この區間自動車で二十分を要する。

洮昂鐵道から東支鐵道への旅客はこゝに下車して自動車又は馬車で、東支線齊齊哈爾驛に、又反對に東支線から昂洮線への旅客は東支線齊齊哈爾驛で下車、前者と同じく自動車又は馬車で昂昂溪に於て乗換へせねばならない。齊齊哈爾の記事は参照。

(く) 吉林 (長春より二二軒) は吉長鐵路の終端、松花江の左岸にありて、同江上流に産する木材搬出の基地として古來「船廠」と稱へられて居た。市街は比較的清潔で、四

圍山を繞らし滿洲の京都と云はれて居る。人口八萬、木材を大宗として葉煙葉、麻、毛皮等の集散地として榮え、奉天に亞ぐ大市である。

【名勝地】 ▼北山、城の北背にある小丘で山上に關帝廟、藥王廟、玉皇廟等があり、こゝに登れば省城、松花江岸等を大觀する事が出来る。▼江南岸公園、は江の南岸約六町の處にあり、今は農事試験場等も設けられてゐる、其他松花江岸木材集散状況も視察者の見落すべからざるものである。

【旅館】 名古屋館 一泊 四・五〇—一・〇〇
(人力車) 一時間三軒錢位 (馬車) 一時間六〇錢 一日二圓五〇錢位

(や) 敦化 (吉林より二二軒) は清朝の發祥地と云はれる古い都で牡丹江畔の盆地にあり、吉林と間島との約中間に位し吉敦鐵道開通以來活氣を見せて居る、人口一萬五千餘人、將來當地會寧間約一〇〇軒の鐵道開通後は一層繁榮に趣くことと考へられる。

この地の旅館は現在官設、教化官店一軒あるのみである。

(ま) 哈爾濱 (長春より二四一軒) は松花江の右岸にあり、東支鐵道南部線の分岐點に位し、水陸交通の便を有し廣漠なる沃野を控へ、北滿唯一の商工業中心市場で滿蒙の特産大豆、小麥、豆粕、雜穀等の集散年額四百萬噸を超えて居る。

長春から約八時間で達する事が出来、こゝを接續驛として東は浦鹽へ、西は滿洲里を経て西比利亞、歐羅巴へ到着することが出来る。

こゝは鐵道開通以前は松花江畔の荒涼たる一寒村に過ぎなかつたが、露國が此の地を相して東方經營の大策源地としてから急速の大發展をなし、東洋の巴里と云はれる程の純然たる歐洲式大都會を形も造り、日支露三國人を初めあらゆる外人が雜居し、享樂機關も多く明るい感じの町である。人口三十二萬餘、内民國人二十四萬餘を占め露西亞人八萬千餘、邦人も

四千七百餘程住んで居る。

市街は舊哈爾濱、新市街、埠頭區に分れ、別に支那人街の傳家句がある。

新市街は土地高燥、主として官衛の集まる處、莫斯科を摸したと云はるゝ丈け各戸に建築の粹を集め道路清潔樹蔭に恵まれ東亞に於ける代表市街たる觀があり、停車場、東支鐵道廳、各國領事館、銀行などもあつて當市の中樞をなして居る。埠頭區は松花江に面した低地にある商業地區で、鐵道線路により新市街と分れ、日露支の各商人雜居し殷盛を極めて居る。中にもキタイスカヤ街の如きは街路廣潤、宏壯な店舗櫛比し宛然歐米都市にあるの感を抱かしめる。

正金銀行出張所、朝鮮銀行支店、松花銀行、三井洋行出張所、日本旅館など皆此區に集中し、日本商人は多くモストワヤ街に集まつて居る。舊哈爾濱は新市街の東南方に一區を成し

當市建設の階梯として相當繁榮を見たが、新市街と埠頭區の完成と共に淋れて來た。家傳句及松花鎮は松花江を挾んで相對する純然たる支街都市街で、市の行政區劃外に屬し、松花江流域に於ける支那貿易の一中心地として繁榮を極めてゐる。哈爾濱は殆んど世界各國人の雜居地で、市營公園の外劇場、活動寫眞館、ダンスホール、露西亞風呂など旅行者を楽しませるものが澤山ある。

遊覽順序

旅館↓日本商品陳列館↓滿鐵事務所↓中央寺院↓東支鐵道管理局↓、沖、横川兩氏の碑↓日露協會學校↓日本領事館↓秋休商會↓傳家句↓日本小學校↓松花江↓キタイスカヤ街↓旅館
市内電車、馬車、人力車があるから、露西亞語、支那語をよくする人は之等を任意利用すれば宜い譯であるが、一般觀光者にして短日時に右遊覽順序の如く汎く見んとする場合は自動車の利用を御

勧めしたい。料金は四人乗り小型で一臺九圓、十六人乗大型で一臺十二圓位で一巡觀光出来る。

【名勝地】▼沖横川兩志士の碑、は市の西南郊外にあり、日露戰役當時の兩志士が壯烈なる最後を遂げた遺跡は遊客をして斷腸の思ひあらしめる。▼埠頭區公園、は設備比較的完全で當地唯一の遊樂場である。演藝場の設けもあり、夏季は夕刻から美裝した滿都の人士此處に娯集す。其の他松花江鐵橋、中央寺院、東支鐵道廳、チューリン商會、商品陳列場、露西亞風呂、パレルモ等も遊客の見通すべからざるものである。

【旅館】名古屋館(モストワヤ街)、北滿ホテル(ノオトルゴワヤ、ホレウヤ街角)、室料三・〇〇以上、食事料八〇―二・〇〇

(け) 昂昂溪 (東支線齊齊哈爾驛、哈爾濱より二七〇軒) 昂昂溪は東支鐵道に於て齊齊哈爾驛と稱し哈爾濱から六時間で達する。日本人約三十人支那人一萬五千人露西亞人一千六百人

滿蒙旅行に就て

を算し、洮昂線開通後漸次發展の途に向つて居るが現洮昂線昂溪驛とは約一里半隔たり此の間馬車、自動車に依つて連絡して居る。尙この地から齊齊哈爾城内に輕便鐵道が通じてゐるし自動車の便もある。

日本旅館として昂榮館がある。宿泊料 二食付 四圓

本旅館の案内人が列車到着毎に停車場に迎ひに出て居るからこの地方未知の旅客は列車乗換其他の世話を申付けられるが便利である。

齊齊哈爾 は東支鐵道齊齊哈爾驛(昂昂溪)から輕便鐵道が通じまた自動車の便もある。黒龍江省城の所在地で各官衙、學校、日本領事館、滿鐵公所等があるが本市は單に政治的及軍事的の必要上繁盛となつたもので、商業は振はず、日常必需品を賣る小賣を主とし對外的取引の見るべきものは僅かに畜産物のみである。人口約七萬内内地人百二十餘。

【旅 館】 朝日館 一泊二食付 四圓

洮昂鐵道と直通連絡を行つて居る齊克鐵道は洮昂線昂昂溪から東支鐵道を横斷して齊齊哈爾城外(龍江驛)に到つて居るが停車場城内間約四軒隔つて居り馬車自動車の便がある。

(滿洲里)

(哈爾濱より九三五軒)

哈爾濱から汽車二十四時間行程である、こゝは露支國境

地點で東支鐵道の終端驛で、ザバイカル鐵道は茲からチタ、イルクーツクを経て歐露に連絡して居る、旅客はこの驛で乗換を爲し又税關検査を受けねばならぬ、こゝにはジャパントーリズム、ユロー、ワゴンリー、東支鐵道等の出張員が居り通關代辯、手荷物託送、兩替其他の斡旋をして呉れる、この地の産業としてタルバガン獵とダライ湖の漁業が主である、前者は年貿易額八十萬元、後者は年漁獲高五十萬元に及んで居る、人口一萬三千餘人内露人八千餘邦人百二十餘人其他は支那人である。

本市には日本領事館、陸軍特務機關があり、露國側としては税關、學校、病院、銀行、支那側としては縣公署、警察署、其他の官衙がある。

【旅館】 ホテルニキーン (室代二圓五〇錢以上)

日本旅館 大正旅館 (室代二圓)

(6) 一般宿泊料及各地旅館一覽表

鮮滿及支那の主要都市に於ける日本式の旅館の設備は概して整つて居る。初めての旅行者の氣掛りの一つである宿屋の泊りは内地より滿鮮の各地の方が餘程心配がない。第一に朝鮮も滿洲も一律に茶代と云ふ面倒を旅客にかけない協定が成立つて居て、宿泊料以外に旅館での入費は單に使用人の心附だけで済む。若し團體宿泊の場合であれば一層簡單で、宿泊料は鮮滿案内所で豫め所定の割引料金で取決め(滿洲の各地に限る)宿泊料は案内所に拂込み旅館

券を持参すれば宜い便法もある) 宿泊の豫約が出来る、此場合旅館使用人心付けは勘定つゝ一割見當で宜い。茶代謝絶の各地旅館の宿泊料大略次の如し。

日本旅館一般宿泊料 (朝晩二食付)

	一等	二等	三等	四等
朝鮮滿洲各地 宿泊料	六圓位	四圓五十錢位	三圓五十錢位	三圓位
晝食料	三圓位	二圓位	一圓五十錢位	一圓位
哈爾濱其他各地宿泊料	十弗位	八弗位	六弗位	五弗位
晝食料	四弗位	三弗位	二弗位	二弗位

(弗は約七掛を圓と思へば大差ない)

日本旅館團體宿泊料

朝鮮滿洲各地	中學校程度學生	二圓	三食附。晝食折辨當とす
	中學校以上學生	二圓五十錢	
	青年團員	二圓五十錢以上	
	教員軍人	三圓	朝晩二食附。晝食料
	普通團體	三圓五十錢以上	一圓乃至二圓
	紳士團體	五圓以上	

哈爾濱及支那各地旅館料金は三圓乃至六圓位で其都度定める

各地日本旅館名

釜山——鳴戸旅館、大池旅館、松井旅館、花屋旅館、荒井旅館、米屋旅館、佐々木旅館
 松本旅館、岡本旅館、岡山旅館、岩井旅館、松屋旅館、
 東萊——東萊館、鳴戸旅館、蓬萊館、荒井旅館

慶州——柴田旅館、朝日旅館、佛國寺旅館
 大邱——唯屋、田中旅館、花屋、吉田旅館、三福旅館、立花旅館
 大田——大田旅館、花屋、千歳、玉屋旅館、中川
 京城——不知火館旅、浦尾旅館、備前屋、天眞樓、京城ホテル、山本旅館、笑福旅館、御成旅館、村上館旅、二見旅館、豊前屋、旭旅館、大東旅館、光化門ホテル、梅屋
 仁川——淺岡旅館、旭屋、旅川旅館、花屋
 開城——開和館、岩見旅館
 平壤——鐵道ホテル、三根旅館、朝日旅館、大同館、つばめや、梅屋旅館、青々館
 新義州——綠屋、中津旅館、岩田、大和旅館
 滿蒙旅行に就て

元 山——愛媛館、大東館、巴館、丸金旅館、花屋旅館
 内金剛——内金剛旅館、蓬萊館
 外金剛——嶺陽館、萬龍閣
 清 津——鷄林館、清進館、櫻屋
 會 寧——會寧館、博多屋
 朱 乙——千歲館、鮮仙閣、萬翠、かねた旅館、
 安 東——安東ホテル、元寶館。喜久旅館、日ノ出旅館、安東館、大和館
 五龍背——五龍閣、保養館、聚樂館
 奉 天——瀋陽館、大星ホテル、大丸旅館、常磐旅館、日進館、一力旅館、滿洲館、武藏屋
 撫 順——炭礦ホテル、築紫館、壽館、長崎屋、撫順旅館

遼 陽——遼塔ホテル、油屋旅館
 鞍 山——近江屋ホテル、紅葉館、扇屋旅館
 湯 崗 子——對翠閣、玉泉館、清林館、龍泉別墅
 營 口——清林館、滿月旅館
 旅 順——旅順ホテル、防長間、寶來館、福壽館
 大 連——遼東ホテル、花屋ホテル、鎮西旅館、東旅館、磐城ホテル、大連ホテル、春田
 旅館、東郷旅館、日本橋ホテル、辰巳旅館、三杉旅館、東洋ホテル、大和館、
 名古屋旅館、富士屋旅館、浪速ホテル
 四平街——植半旅館、小松屋旅館
 長 春 滿洲屋旅館、北滿旅館、西村旅館、富士見旅館、南洋旅館、大丸旅館、吉田旅館
 滿蒙旅行に就て

滿蒙旅行に就て

哈爾濱 北滿ホテル、名古屋館、紅葉館、東洋ホテル、朝日館、大和館
 昂昂溪 昂榮館（東支線昂々溪）
 齊齊哈爾 朝日旅館、龍沙旅館
 鄭家屯 鄭家屯ホテル
 吉林 名古屋館、日清旅館、吉敷旅館
 龍井村 間島旅館、名古屋旅館、龍井旅館
 浦鹽斯德 旭館、扶桑館
 天津 常盤ホテル、大和ホテル、芙蓉館
 北平 扶桑館、一二三館、一聲館、滿留屋
 漢口 松廼家旅館、竹ノ家、福田、富貴館

青島 大和ホテル、花月旅館、松葉屋、葛屋、中央ホテル
 濟南 金水旅館、鶴屋ホテル、レールウェイホテル
 上海 東和洋行、萬歲館、勝田館、豐陽館、常盤舎、辰己屋、大和ホテル、東館、八代館
 南京 寶來館、下關寶來館

上述の如く鮮滿及支那の各地には日本旅館の設備はあるが、尙此外に洋風ホテルも著名の都市には必ずある今夫等の主なるものを摘記すると、

- 〔釜山〕 ステーションホテル
- 〔京城〕 朝鮮ホテル
- 〔金剛山〕 長安寺ホテル、溫井里ホテル（開山中ノミ開業）
- 〔平壤〕 鐵道ホテル
- 〔新義州〕 ステーション、ホテル

滿蒙旅行に就て

〔奉天〕 ヤマトホテル、都ホテル 〔撫順〕 炭鑛ホテル

〔大連〕 ヤマトホテル、星ヶ浦ヤマトホテル

〔旅順〕 ヤマトホテル 〔長春〕 ヤマトホテル

〔哈爾濱〕 モデルンホテル、グランドホテル、ベラスホテル、オリエントホテル

〔天津〕 アスターハウスホテル、インペリアルホテル、クキンスホテル

〔北平〕 グランドホテル 〔漢口〕 ワゴンリーダーミナルホテル

〔南京〕 ブリツヂハウスホテル

〔上海〕 アスタルハウスホテル、マジユステットホテル、ハラスホテル、ホテルプラザ

◎料金は一定して居ないが、普通一日一人室料は四圓乃至七圓である。

支那旅行用語

支那旅行用語

日語	支那語
來ナサイ	ニイライ
來マス	ライ
行キナサイ	チユイバ
行キマス	チユイ
歸リマス	ホイチユイ
早ク	クワイクワイデ
ユル／＼	マンマンデ
少シ待チナサイ	トンイートン
待チマス	トンア

支那旅行用語

日語	支那語
ハイ(返事)	シー
私	ウオー
私等	ウオーメン
御前	ニイ
アナタ	ニン
汝等	ニーメン
彼等	ターメン
誰レ?	シユイ
何處デスカ	ナアール

日語	支那語
此處	チヨール
其處	ナール
彼處	ナーペエル
右ノ方	ユウベエル
左ノ方	ツオーベエル
來マシタ	ライラ
持ツテ來ナサイ	ナーライ
持テ行キナサイ	ナーチユイ
有リマスカ	ユーマ